

CHOFU Network

Vol.25-1

発行日: 平成25年4月22日

電気通信大学同窓会

一般社団法人 **目黒会**

経験・知識・心をつなぐ会報誌



CONTENTS

特集

目黒会は、平成25年4月1日より 「一般社団法人」に移行しました。

巻頭論壇 電通大を強くするために 梶谷 誠

新連載 「Jリーグキャリアサポートセンター」設立奮闘記 Vol.1 八田 茂

好評連載 COLLINSと共に生きた我が人生②②(最終回) 大久保忠昭

電気通信大学藤沢分校物語⑤ 近藤俊雄

表紙解説

林 義弘 (日本スケッチ画会理事 S39年RB卒)

久しぶりに布田天神を訪れた。ちょうど「芽の輪」の頃だったようで、若葉の中をしばし散策した。



撮影者雑感

小川淳四郎 1966年 電波工学卒

今冬の寒さは厳しかっただけに春への期待が高まるばかり。この3月上旬、一面に咲く花を求めて淡路島を訪ねたが、ここでも厳冬の影響とかで菜の花がやっと開いた程度と期待はずれ。早春の瀬戸内海は、陽射しは強かったものの北寄りの冷たい潮風に顔が強張るほどだったが、たまたま新月大潮のタイミングに恵まれ、大鳴門橋の下で激しく湧き上がる渦潮の壮大さに魅せられると共に春の息吹を実感した。

CONTENTS

巻頭論壇 電通大を強くするために 電気通信大学長 梶谷 誠 2

目黒会は、平成25年4月1日より「一般社団法人」に移行しました。 3

平成25年度電気通信大学同窓会賞表彰式報告 8

平成24年度目黒会賞受賞者一覧 10

電気通信大学は2018年、創立100周年を迎えます。 11

電気通信大学創立100周年記念事業へのご協力をお願い 電気通信大学理事 三橋 渉

電気通信大学基金について 電気通信大学理事 植村 隆

100年史編纂等のための写真等の提供をお願い 創立100周年記念事業推進室

御退任記念祝賀会レポート 退任のご挨拶 14

福田 豊／山田幸生／丹羽治樹／樽井 武／太田敏澄／渡邊俊典／田口みさお

目黒会正会員募集キャンペーン 20

「目黒会の正会員になって、より豊かな人生を送りませんか？」

目黒会正会員限定 労務相談スタート! 22

第70回目黒会定期総会開催のお知らせ 23

「Jリーグキャリアサポートセンター」設立奮闘記 Vol.1 八田 茂 24

UEC・NOW 電気通信大学はいま 28

①コンピュータ囲碁の進歩と本学の取り組み 伊藤毅志

②サービス・サイエンス サービスや教育の質向上のための異質性の分析— 椿 美智子

③平成24年度 就職委員会活動報告 山森信生

COLLINSと共に生きた我が人生 ②② (最終回) 大久保忠昭 38

秋の叙勲 43

電気通信大学藤沢分校物語⑤ 近藤俊雄 44

members' voice 開戦前夜東京湾口の触雷事件顛末 菊池金雄 52

電波教育と共に歩いた50年 伊藤浩二郎 54

大きく変化して来た情報社会 梅北千広 55

支部・クラス会 56

北海道支部／東海支部総会／平成24年 関西総支部「秋の懇親会」／目黒会四国支部総会報告／2012年度 タイ支部総会開催報告／三期技術専攻科 第15回 同期会の報告

NEW STAGE 新たな舞台で輝くOBを誌上訪問 「交響楽団から弦楽アンサンブルへ」 遠峰 徹 65

目黒会事務局スタッフ募集! 43

第63回調布祭ご寄付のお願い 49

スマートテクノロジーフォーラム(STF)2013

(旧 目黒会移動体通信研究会)開催予告 50

平成25年新年交歓会ご報告 57

リサーチ日記 61

寄付・訃報 62

編集後記 63

電気通信大学オリジナルグッズ 64

(株)ブライダルは
電気通信大学同窓会の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

35年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に電気通信大学同窓会の皆様には平成17年より「電気通信大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「日黒会報」を見たとおっしゃてくだされば、会員の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させて頂きます。

電気通信大コース 登録料
50%OFF

ブライダルコース
¥220,500 ▶ ¥204,750 etc.

エクセレントコース
¥378,000 ▶ ¥362,250 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

株式会社ブライダルの詳しい情報はホームページをご覧ください。
詳しくは(株)ブライダルと検索してください。

(株)ブライダル

検索

お問い合わせ
(月曜定休)



0120-415-412

ホームページ
携帯サイト

<http://www.bridal-vip.co.jp>
<http://www.bridal-vip.net/m/>

右のQRコードにて携帯サイトにアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



35年の実績
株式会社

ブライダル

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿 1-26-2 新宿野村ビル28F
Network/東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

電通大を強くするために

電気通信大学長 梶谷 誠



はじめに

前回の目黒会会報（Vol.24-2）で、国立大学を襲う大きな圧力について述べました。昨年6月に文科省が発表した「大学改革実行プラン」により、平成24年度中に、教員養成系、医学系、工学系の各分野について「ミッション再定義」を行い、その結果を今年3月中旬に公表するとしています。本学は工学系に指定され、昨年10月末に活動実績に関わるデータを文科省に提出しました。今年2月12日には、文科省との意見交換会があり、本学に対する「ミッション再定義」の文科省素案が示されました。しかし、素案は本学としてはそのままでは受け入れ難いものであり、直ちに修正意見を提出しております。文科省の素案が示す「ミッション再定義」は、大学にある種のランク付けを課することになりかねず、今後の本学の位置づけによっては、これからの活動が制約される可能性があり、極めて重大な影響をもたらします。しかし、現時点（3月18日）では文科省から何の応答もなく、これ以上言及することはできません。

どのような展開になろうとも、本学をさらに強い大学にしなければ存在が危うくなります。本稿では、電通大の将来を左右する新たな動きについて紹介致します。

電気通信大学（UEC）基金の創設

すでに本会報でもご案内しておりますように、昨年7月にUEC基金を設立し寄付金を募っております。国立大学に対する国の財務的な支援は年々削減され、大学間の格差も拡大しています。大学を強くするためには、財務基盤の強化が必須です。さしあたって、2018年の創立100周年を力強く迎えるため、100周年記念事業を成功させる基金を必要としています。目標は10億円です。現在まで多くの目黒会会員の皆様のご厚志をいただいておりますが、まだまだ目標にほど遠い状況です。カードでの支払い、分割払いなど寄付手続きを工夫しております。詳しくは、本学のホームページをごらんください。

<http://www.uec.ac.jp/about/activity/kikin/>

重ねてご厚情のほど切にお願い申し上げます。

小島町地区（職員宿舎地区）再開発事業

本学の西地区キャンパスから甲州街道を挟んだ反対側（北側）の1万平米強の土地に、職員の宿舎が

建っています。すでに築40年を超え、老朽化が進み、このままでは維持できません。そこで、この地区を再開発し、職員の宿舎機能は最小限に縮小し、留学生を含む学生（男女）宿舎、産学官連携の共同研究施設などを含む複合施設からなる新キャンパス（100周年記念キャンパス）を建設する準備を進めています。この事業には、国からの資金援助は全くないため、民間の力を借りねばならず、事業として採算を取らねばなりません。今後、上記の共同研究施設への企業等の入居を募集致します。企業の研究開発部門の一部をこの施設内に置き、本学の研究者との共同研究を実施していただくと、密度の濃い効果的な研究開発が可能になります。ぜひご活用をご検討いただき、ご協力いただければ幸いです。詳しくは、本学の産学官連携センターの下記アドレスにメールでお問い合わせください。

onestop@sangaku.uec.ac.jp

現在の計画では、2016年度に竣工し、2017年度から使用に供し、2018年の100周年記念式典には全容をお披露目する予定です。

大学院の強化

本学は、平成22年度に電気通信学部を情報理工学部へ改組する60年ぶりの組織改編を実施し、学部教育の質の向上などに取り組んでいます。一方、理工学系の人材に対する社会の要請は、学部レベルから大学院修士レベルへシフトしており、修士修了者の量と質の確保、学部教育と修士教育の効果的な接続が求められています。また、日本の大学院教育の弱点である博士人材の育成の強化も課題になっています。そこで、本学でも大学院の強化に注力する必要があります。先に述べた「ミッション再定義」の結果も踏まえ、本学の特色・強みを活かした大学院の強化を模索しています。

おわりに

現在、国立大学も本学も大きな危機を迎えています。この危機を乗り越えるために、本学のこれまでの実績に基づく強みと特色を積極的に活かす攻めの姿勢で望む覚悟です。

目黒会は、平成25年4月1日より 「一般社団法人」に移行しました。



ご挨拶

国立大学法人電気通信大学 同窓会
一般社団法人目黒会 会長 安田耕平



目黒会は、これまでの「社団法人」から新しく「一般社団法人」に移行する方針を決定し、そのための準備を2年にわたり続けてまいりました。また、その内容については既に会報などで繰り返し皆様にお知らせしてまいりましたのでご理解頂けているものと存じます。

このたび申請先である東京都より法人移行の「認可」を得て、平成25年4月1日に新法人への移行登記を完了し、今後は「一般社団法人目黒会」として活動していくこととなりました。目黒会は、以下の基本方針にのっとり、母校電気通信大学との連携を基本として、同窓会活動をはじめとするさまざまな活動にこれまで以上に力を入れていく所存ですので、会員の皆様のご理解とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

平成25年度 一般社団法人目黒会 基本方針

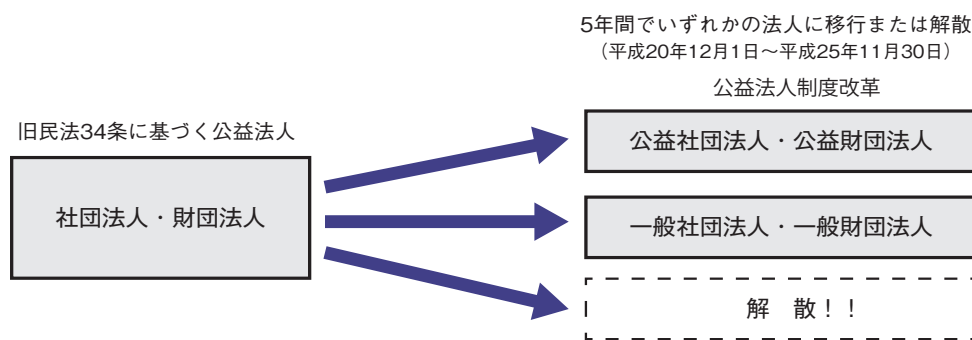
- 1 国内外の支部活動を充実させ、正会員増強に努めます。
- 2 2018年度創立100周年記念事業に向けた活動を大学とともに、推進いたします。
- 3 ICT活用および委員会活動を活発化させ、会員相互の交流とさらなる会員満足度の向上を図ります。

一般社団法人への移行について

社団法人 目黒会 法人移行タスクフォース

法人移行の背景

平成18年6月「公益法人制度改革に伴う関連諸法案」が公布され、現行のすべての公益法人は下図のように新法人体系に移行することになり、社団法人である目黒会もその対策を迫られました。その移行の期限は本年11月末までとなっております。



法人形体について

平成22年に移行推進特別チーム（法人移行タスクフォース）を組織横断的に編成し、さまざまな観点から法人移行の基本方針を検討いたしました。

- 「公益社団法人」と「一般社団法人」ではメリット、デメリットはどう違うのか
- 現在および将来の実施事業に対する制約はどうか
- 電気通信大学同窓会 目黒会としてみたとき、新公益法人としての適合性はどうか
- 他大学の同窓会社団法人はどのような対応をするのか

その結果、目黒会は「一般社団法人」に移行することがもっとも適切であると判断され、理事会、総会でその基本方針案の議決を経て、そのための準備を開始しました。

新しく定義された「一般社団法人」においては、原則として行政指導や公益性の枠にとらわれることなく、会員の皆さまや母校の発展のために、これまでの事業を強化したり新しい事業を実施してゆくことがより自由になります。ちなみに、他大学の同窓会も同様に「一般社団法人」に移行する例が大半となっております。

法人移行への経緯

平成23年5月	第68回総会にて「一般社団法人」へ移行する基本方針案が承認された
平成24年5月	第69回総会にて新法人の「定款」「諸規則」案などが承認された
平成24年8月	「一般社団法人」への移行を行政庁(東京都)に申請 (平成25年3月25日認可取得)
平成25年4月1日	「一般社団法人」へ移行登記を完了

新法人移行に伴う主な変更点

① 定款の大幅な変更

新しい法令および社会情勢の変化に対応するため、新法人の定款は従来から大きく変更されました。本会設立当時は電気通信、とりわけ無線通信技術の普及と発展に大きな使命感をもち、この分野で顕著な業績を果たしてきました。終戦後、無線電信講習所は電気通信大学となり、目黒会も「電気通信大学同窓会」として、卒業生、教職員、在学生を含めた会員組織でその活動を引継ぎ、さまざまな社会貢献をおこない発展してきました。法人移行を機に定款の全面的な見直しをはかることとなり、設立当時の社会情勢が著しく変化していることも踏まえ、組織体制を始めとして新法人にふさわしい内容になるよう改めました。

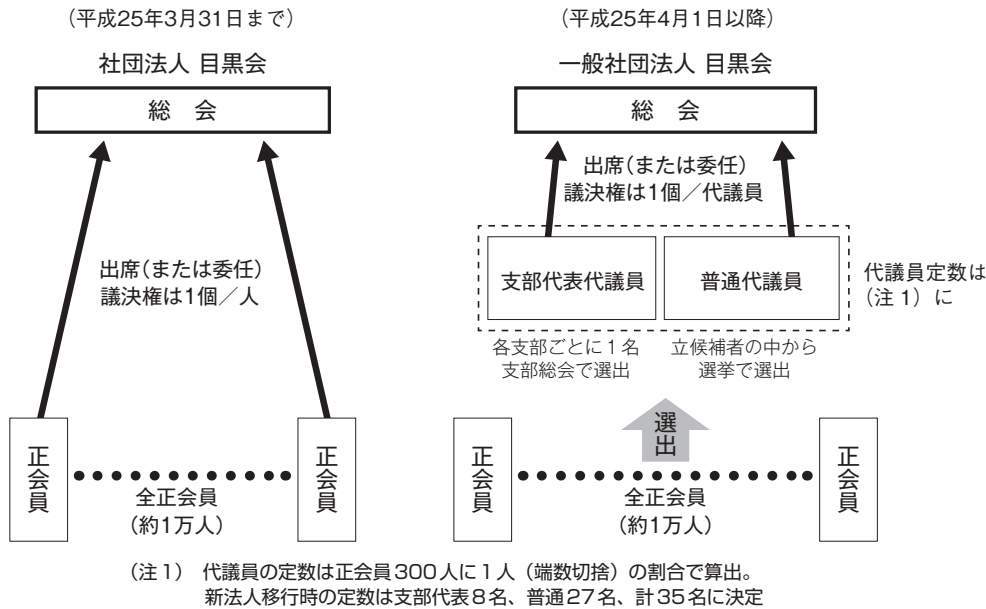
- 法人の目的条項を改め、「この法人は、科学技術の発展に寄与し、広く社会に貢献するとともに、会員の親交をはかり、心豊かな人生の一助と為すことを目的とする」とした。
- 理事会へ委任出席が新法で禁止されたので、理事は毎回の理事会に原則出席可能な範囲に限定される。そのため、理事の定数（従来40名以上50名以内）を改め、10名以上20名以内とした。
- 理事会は法に定める機関となり、この法人のすべての業務を統括し、理事の業務執行状況を監督する、と規定され、実質的に法人統治の責任を負う機関となった。
- 正会員により選任された「代議員」（後述）が法律上の社員となり（社員）総会を構成し、総会がこの法人の最高意思決定機関として、定款に定める重要事項を議決し、理事の選任と解任を行う。代議員制度の施行により、正会員は総会での議決権をもたないこととなった。

紙面の関係でここには新定款および関連諸規則を掲載できませんが、ホームページからご覧いただくことができ、また、本会の正会員であれば事務局に資料開示の請求ができます。

② 代議員制度の採用

新法人移行を機に制度面での改革を行ない、今では多くの社団法人で採用されている「代議員制度」を採り入れることになりました。従来、目黒会は「正会員を法律上の社員」に位置づけておりましたが、正会員数が1万人を超えている現在、必要な委任状を確保して「総会」を開催することが年々難しくなってきました。そこで正会員に一定数の代議員を選んでもいただき、「代議員を法律上の社員」として社員総会を構成し、議決を行なう方式を採り入れるものです。この代議員制度の一般的概念は下図のようになります。代議員選出の仕組みは新たに「代議員選任規程」を定め、正会員により選出された代議員が定款に定めた法人の重要事項を総会で決議します。

代議員制度の概要



一般社団法人目黒会 代議員一覧 (任期 平成25年4月1日～平成27年3月31日)

普通代議員

No.	氏 名	卒年	学科・専攻名
1	高島 利尚	S41	通信経営学科
2	安田 耕平	S43	電波工学科
3	芳賀 克己	S44	電子工学科
4	山森 信生	S44	電子工学科(短大)
5	野々村欽造	S45	通信材料工学科
6	森 淳	S46	通信工学科
7	坂本 隆	S47	物理工学科
8	竹内 進	S48	機械工学科
9	金屋 栄	S49	通信工学科
10	傘 義冬	S50	電子計算機学科
11	今井 高介	S50	電子計算機学科
12	村上 慶一	S51	電子工学専攻
13	和田 治文	S51	経営工学科
14	渡辺 一夫	S52	電子計算機学科

No.	氏 名	卒年	学科・専攻名
15	小柳 洋	S53	機械工学科
16	鷲頭 浩一	S56	応用電子工学科
17	白石 亘	S57	機械工学第二学科
18	宮城 郁美	S58	情報通信学科(短大)
19	大木 滋	S59	計算機学科
20	山川 智	S60	応用電子工学専攻
21	宮本 孝宏	S61	応用電子工学科
22	青木 実	S61	通信工学科
23	金剛寺由紀子	H02	電子情報学専攻
24	高橋 真之	H04	電子工学専攻
25	中村 憲一	H08	機械制御工学科
26	細井 淳司	H09	電子情報学科
27	吉澤 智之	H10	電子情報学科

支部代表代議員

No.	氏 名	卒年	学科・専攻名	選出支部
1	梅沢 英行	S51	経営工学科	北海道支部
2	木村 光照	S42	電子工学科	東北総支部
3	杉山 光裕	S50	応用電子工学科	首都圏総支部
4	水野 良之	S57	応用電子工学専攻	東海支部
5	小島 宜治	S50	経営工学科	関西総支部
6	川手 幸治	S50	電波通信学科	広島支部
7	大屋 英稔	H15	電子情報学専攻	四国支部
8	藤田 幸也	S58	電波通信学科	九州支部

一般社団法人目黒会の役員

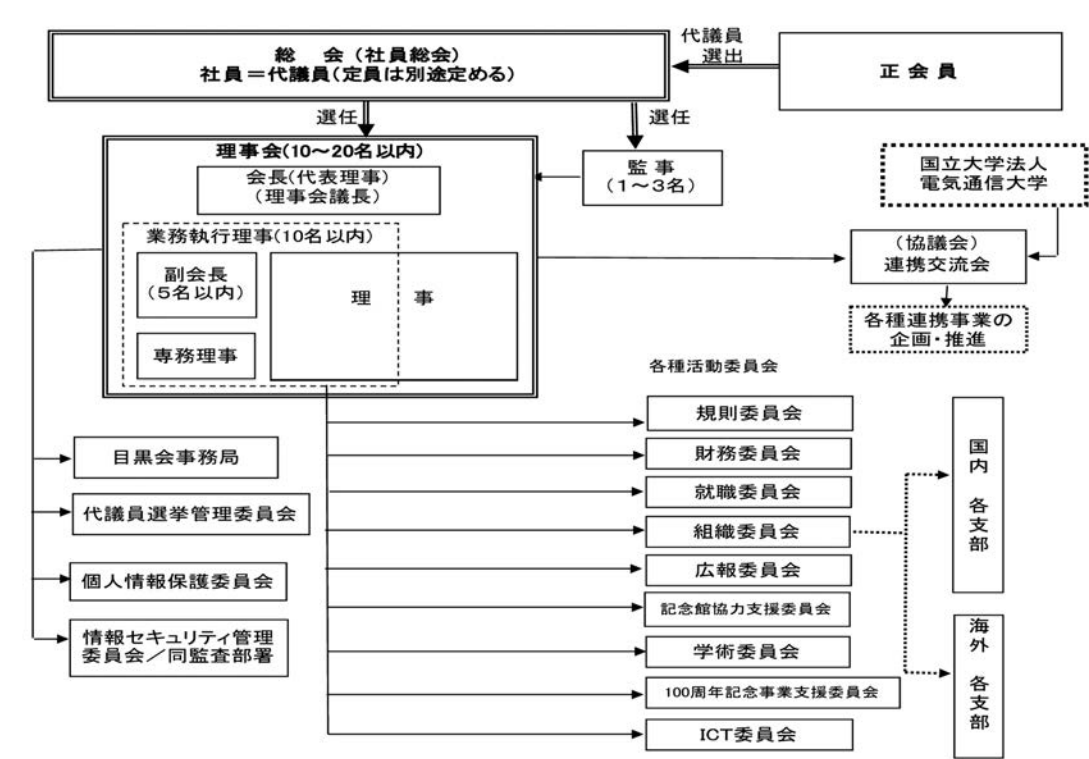
法人移行に際しては旧法人の役員は原則そのまま新法人の役員（理事）に就任しますが、理事の定数が大幅に改定されたのに伴い、何人かの理事が法人移行を機に辞任をされました。次の方々が継続して新法人の理事・監事に就任し、下図の新組織形態のもとで一般社団法人目黒会を運営してまいります。

H25年度 一般社団法人目黒会 理事・監事（定数：理事 10名以上20名以内、監事 3名以内）

No.	氏 名	H25年度役員	卒年	学科・専攻名
1	安田 耕平	代表理事	S43	電波工学科
2	高島 利尚	理 事	S41	通信経営学科
3	芳賀 克己	理 事	S44	電子工学科
4	野々村欽造	理 事	S45	通信材料工学科
5	山森 信生	理 事	S44	電子工学科（短大）
6	坂本 隆	理 事	S47	物理工学科
7	金屋 栄	理 事	S49	通信工学科
8	傘 義冬	理 事	S50	電子計算機学科
9	杉山 光裕	理 事	S50	応用電子工学科
10	岩本 茂子	理 事	S51	電子計算機学科

No.	氏 名	H25年度役員	卒年	学科・専攻名
11	梅澤 英行	理 事	S51	経営工学科
12	竹内 進	理 事	S48	機械工学科
13	小島 宣治	理 事	S50	経営工学科
14	和田 治文	理 事	S51	経営工学科
15	小柳 洋	理 事	S53	機械工学科
16	宮城 郁美	理 事	S58	情報通信学科（短大）
17	高橋 真之	理 事	H04	電子工学専攻
18	吉澤 智之	理 事	H10	電子情報学科
1	三木 哲也	監 事	S40	電波工学科
2	船井 一美	監 事	S34	電波工学科

一般社団法人目黒会 組織概念図



法人移行タスクフォース

法人移行を的確に推進するための特別編成チームで、4月1日に目標を達成したので解散した。

メンバー:山森信生（リーダー、S44JE）・高島利尚（S41B）・江尻貞明（S42E）・芳賀克己（S44E）・猪崎徹（S44T）・野々村欽造（S45S）・坂本隆（S47P）・金屋栄（S49C）・岩本茂子（S51D）・中谷敬郷（事務局、S41T）

平成25年度 電気通信大学 同窓会賞表彰式報告

平成25年4月4日

平成25年度の電気通信大学同窓会賞表彰式は電気通信大学入学式に引き続き行われました。今年度は美馬のゆり氏と関本清英氏のお二人が受賞され、表彰式に引き続いて行われた講演で、美馬氏からは大好きな言葉として「未来を予測する最良の方法は創る側に回って未来を創ることです。電通大によろこそ！」関本氏からは「まずいと思われることはその時点ですぐに対処することを在学中から習慣にしてください。社会に出てから役に立ちます。」という言葉が新入生に贈られました。また美馬氏の著書『理系女子の生き方のススメ』(岩波ジュニア新書)の販売サイン会が同日行われました。



美馬のゆり氏

1984年 計算機科学科卒業

◆経歴

1984年 電気通信大学計算機科学科卒業

～ ハーバード大学及び東京大学大学院において修士号取得

1998年 スタンフォード国際研究所教育工学センター国際研究員

2000年 公立はこだて未来大学システム情報科学部教授(現在に至る)

2001年 マサチューセッツ工科大学メディア・ラボラトリー客員研究員(～2002年)

2003年 「日本科学未来館」副館長(～2006年)

2010年 電気通信大学大学院情報システム学研究科において博士号(学術)取得

◆受賞、表彰

1988年 LOGO大賞優秀賞(産業工学研究所・コンピュータ教育研究会)

1992年・1996年 日本認知科学会発表賞

1997年 日本教育工学会研究奨励賞

2001年 情報処理学会インタラクティブ2001「ベストインタラクティブ発表賞」

推薦者のことば

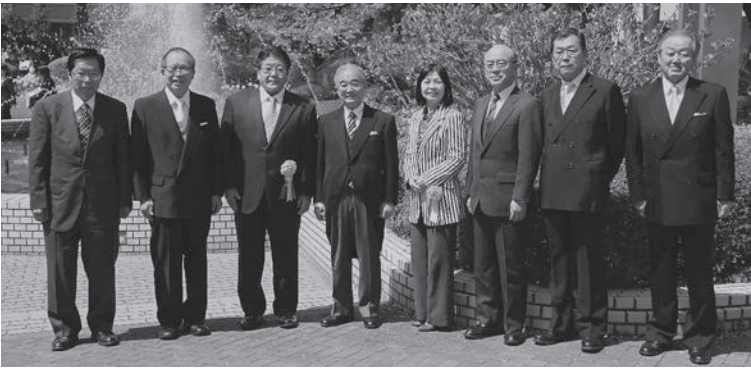
目黒会理事 岩本茂子

美馬のゆり氏は電気通信大学計算機科学科を卒業後、外資系コンピュータ・メーカー勤務を経て、ハーバード大学、東京大学、電気通信大学のそれぞれ大学院に学び、2010年に博士号(学術)を取得しました。その後、川村学園女子大学、金沢大学、米国スタンフォード国際研究所、埼玉大学などにおける研究と教育を通じた経験を活かし、公立はこだて未来大学の設立計画策定に当初から参加し、他に類を見ない極めて特徴ある大学を誕生させたことは社会から高く評価されています。そして公立はこだて未来大学で教授として認知科学、学習環境デザイン、科学コミュニケーションの研究と教育に力を発揮される一方で、産学官民の事業に積極的に取り組み大きな成果を上げ、地域社会から大きな評価を得ております。

さらに、近年の科学技術の進歩を広く国民に、特に日本の未来を担う青少年に科学への関心を普

及すべく「日本科学未来館」の設立計画策定に参画し、2003年から同館の副館長として、毛利衛館長(元宇宙飛行士)とともに今までに得た知識と経験を社会に還元するために力を発揮されましたことは特筆すべきことです。他方、文部科学省の数多くの委員会に参画し、社会と科学技術の関わりを推進する活動をするかたわら、NHK「サイエンスZERO」のコメンテータとして活躍されたことは皆さまご存知の通りです。また、本学におけるシンポジウムなどのコーディネータとして、また講演者として自らの意見を発信し多くの共感を得ています。

美馬氏は、上記以外にも多方面に渡るメディアで活躍するかたわら、この間に出版された本も34冊になります。専門書ばかりではなく、広く一般読者に読まれる著書も多数に上りますが、中でもごく最近出版された『理系女子(リケジョ)の生き方のススメ』は、これから本学を目指す女子高校生には是非とも読んでいただきたい1冊です。



電気通信大学同窓会賞とは

電気通信大学は現在までに多数の卒業生を世界に送り出しています。世界の各方面で活躍している卒業生のうち、科学技術の研究業績が特に顕著な方に、電気通信大学同窓会「一般社団法人 目黒会」が「電気通信大学同窓会賞」を授与し、その功績を讃え、同窓生の方々にも広く認めていただくことにしているものです。



関本清英氏

1986年 物理工学科卒業

◆経歴

1986年 電気通信大学電気通信学部物理工学科 卒業

1986年 石川島播磨重工業株式会社（現 株式会社IHI）入社

・ウラン濃縮用金属蒸気レーザーの開発

・レーザー応用計測装置の開発 に従事、現在に至る

現在 株式会社IHI 社会基盤セクター セキュリティプロジェクト部 部長

◆受賞、表彰

2009年 第57回 電気科学技術奨励賞

2010年 第2回 レーザー学会産業賞

推薦者のことば

レーザー新世代研究センター 教授 米田仁紀
情報理工学研究科 教授 桂川眞幸

関本清英氏は本学の物理工学科を1986年3月に卒業し、同年、石川島播磨重工業株式会社（現、株式会社IHI）に入社しました。以来27年、レーザー技術を基礎として、ウラン濃縮用金属蒸気レーザーの開発やレーザー応用計測装置など多くの製品開発を手がけ、産業的に極めて重要な技術を世の中に送り出してきました。中でも関本氏が中心となって手がけた屋外対応の三次元レーザーレーダー式踏切障害物検知装置は、JR東日本をはじめ、日本全国の踏切の安全監視システムに採用され、その性能と極限環境における動作信頼度から社会的に大変高い評価を受けました。現在では、この技術は踏切安全監視システムとして1,000式以上稼働しており、その他、道路交通の新しい安全支援システムにおける車両や歩行者の監視など多くの用途に広がり、株式会社IHI社内

にこの事業を統括する新事業部門、社会基盤セクター・セキュリティプロジェクト部が設けられるまでに大きく成長しました。関本氏はこの事業をゼロから立ち上げし発展させ、現在ではこの事業部門の部長の要職を務めている。この功績は、学会等においても極めて高く評価され、2009年に財団法人電気科学技術奨励会より電気科学技術奨励賞、2010年にはレーザー学会（会員：約2,000名）よりレーザー学会産業賞を受賞されています。このレーザー学会産業賞はレーザー学会における最も名誉な賞の一つである。このように、パイオニア精神に溢れる関本氏の業績は、卒業生、現役学生に大きな勇気と夢を与えるものであり、まさに同窓会賞にふさわしい業績を残したと考え、推薦いたします。

平成24年度 目黒会賞受賞者一覧 (平成25年3月25日)

情報通信工学科 (C 学科)

土屋	喬文
堀込	亮平
船橋	鴻志
古市	楓
旭岡	舜介
太田	和秀
木下	恵太
夢	妮
秋山	瑞仁
前尾	友紀子
以上	10名

情報工学科 (J 学科)

佐々木 慎
谷村 明
岡本 昌也
小川 智史
市原 臣時
TRETLE RUDOLF
吉川 潤
以上7名

電子工学科 (E 学科)

瀬戸山	優
山下	博幸
清水	光
安藤	義記
西村	仁志
小杉	臣史
長岡	慧
森本	恭介
臼田	亮
森田	健幸
内田	圭祐
以上	11名

量子・物質工学科 (F 学科)

吉田 純
大古田 駿
齋藤 了一
惠知中悠貴
米田 亮太
輕部 一磨
安孫子大地
山崎 優
以上 8 名

知能機械工学科 (M 学科)

伊藤	優馬
林	鍾勲
加藤	優作
川俣	優
清水	雄太
吉光	亮
佐藤	匡
岩村	憲
植木	公威
以上9名	

システム工学科 (T 学科)

中村 亮介
山崎 仁史
酒井 理佐
柳澤 俊樹
齊藤 淑人
徳永 総一
以上 6 名

人間コミュニケーション学科(H 学科)

今嶋みのり
中村 紗誉
吉野 淳也
河本 温子
並木 渉
以上 5 名
学部合計 56 名

総合情報学専攻（J専攻）

竹俣 潤
飯場 咲紀
宮川みなみ
中村 卓磨
阪本 光
以上 5 名

情報・通信工学専攻 (I 専攻)

加 固 秀太
 菅 原 英紀
 伊 藤 仁
 岩 本 真彦
 近 藤 大貴
 太 田 侑介
 以上 6 名

知能機械工学専攻 (M 専攻)

千葉 昭宏
山口 亮
深石 雄士
伊藤 航
岡部 大家
以上 5 名

先進理工学専攻 (S 専攻)

長谷川 源
川島 拓也
福田 吉晃
相生 智彦
本間 雄太
以上5名

情報メディアシステム学専攻 (MS 専攻)

吉川 博美
木村 堯
以上 2 名

社会知能情報学専攻 (SS 専攻)

大畑 亮介
三浦 大樹
以上 2 名

情報ネットワークシステム学専攻 (NS 専攻)

横瀬 広明
Yasin Oge
以上2名

情報システム基盤学専攻 (FS 専攻)

橋本 崇浩
邱 原
以上 2 名
大学院合計 29 名

総合計 85 名

目黒会賞とは

目黒会賞は各年度の学部卒業生および大学院修了生の内、成績優秀な者として、学内選考委員会によって選考され、電気通信大学長から推薦された方々に、社団法人目黒会が、差し上げるものです。

電気通信大学は2018年、創立100周年を迎えます。

電気通信大学創立100周年記念事業へのご協力をお願い

電気通信大学理事 三橋 渉

今年2012年の12月8日は電気通信大学の前身である無線電信講習所（電信協会管理）が麻布飯倉において無線従事者教育の活動を始めた1918年から数えて94年目になります。来年2013年が95周年、2018年がちょうど100周年の節目に当たりますので、本学ではこれを記念して本年4月に創立100周年記念事業推進室を設けて

- ・記念式典及びシンポジウムの開催
- ・電気通信大学基金の創設
- ・記念誌の編集・発行
- ・記念する施設の整備

に取り組むことになりました。このうちの電気通信大学基金につきましては植村経営戦略担当理事の記事をご覧くださいご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

記念式典・シンポジウム開催や記念誌発行、施設整備に関しましては、本年10月に記念事業委員会を立ち上げそれぞれのミッションごとに専門委員会を組織することとなり、同窓会・目黒会からも専門委員を選出していただきました。会員の皆様方にも今後一層のご協力をお願いいたします。

記念誌発行を担当する専門委員会は「100年史編纂委員会」です。諸般の事情で公式版が未刊のままでありました80周年史の資料を受け継ぎその後の本学の発展の歴史をまとめていきます。80周年史の発行計画以前においても周年史発行は時に頓挫した経緯がございますので、短い編集期間ながら最善を尽くして完成させたいと考えております。掲載すべき文書や写真などの収集のために同窓生の皆様に貴重な資料のご提供を呼びかけま

すので、どうか積極的なご協力をお願いします。なお、最近のスマートフォンやタブレット端末の機能進化に伴って電子書籍の閲覧が実用レベルにありますので、この記念誌には写真集も組み込んで電子出版とし検索機能も充実させる予定です。また、入学式・卒業式やオープンキャンパスなど、在校生や卒業生にとって記念となる折々のイベント時の動画も閲覧できるようにします。それに加えて、100年の歴史を見渡せる概要集を別に印刷しお手元で随時ご覧いただけるようにしたいと考えています。

一方、記念行事（式典やシンポジウムなど）の実施計画を担当する専門委員会として「記念行事実施委員会」を組織して計画的に活動してまいります。現在は未だ具体的な行事計画は立っていませんが、90周年の際の行事を参考にして記念式典のほか、学術講演会やシンポジウムの開催、キャンパス内の研究活動の発表会を行うことなどを予定しています。また、2013年が創立95周年であることから、同窓生の皆様を大学キャンパスにお迎えするホームカミングデーを新たに実施したいと考えています。今のところ未だ計画案ですが、2013年以降、年ごとにホームカミングデーを実施していくことで経験を集積し、2018年の100周年記念行事の成功に繋げたいと考えています。

大学の周年事業が成功するか否かはひとえに同窓生の皆様のご支援・ご協力を得られるか否かにかかっております。専用のホームページも用意する予定です。今後とも多大なるご支援をお願いいたします。

電気通信大学基金について

電気通信大学理事 植村 隆

目黒会様には日頃より大学運営で広いご理解と強力なご支援を賜っており、感謝申し上げます。当寄稿は、併任の電気通信大学基金運営委員会委員長として、本年7月より募金受付を開始した電気通信大学基金（以下：UEC基金）の設立趣旨と事業内容をお知らせし、ご賛同とご協力を頂くことを目的としています。

さて、UEC基金は（1）創立100周年記念事業（2）教育研究支援・環境整備事業として、①奨学支援②国際交流支援③キャンパス整備を事業目的としており、恒久基金として継続募金を行うことを特徴としています。第I期の平成30年（2018年）3月31日迄の目標額を10億円とし、一口5,000円からのご寄附をお願いしています。この寄附金には所得税法或いは法人税法の減税等の取扱いがありますので、税理士、税務署に必ずお問い合わせください。また、ご本人のご了解を得て寄付者芳名録記載、創立100周年記念事業募金での銘板刻印等、本学からの謝意も各種ご用意しています。

では皆様の母校の今をご案内しましょう。武蔵野の豊かな自然に囲まれた本学は電気、通信、情報分野に教育と研究の軸足を置き、情報理工学部4学科1課程、大学院情報理工学研究科と独立大学院情報システム学研究科で構成され、30か国以上、約350名の留学生を含め約5,300名の学生総数となりました。国際交流では米・英・独・仏・中をはじめ20カ国、40を超える大学と国際交流協定を締結しています。研究面ではNHK「クローズアップ現代」やTBS「夢の扉」等にも取り上げられ注目されています。この様な本学の運営には多くの支援が欠かせませんが、目黒会様には就職支援や奨学資金の拠出、或いは80周年記念事業「リサーチ」の建設資金調達等、多岐に亘りご尽力とご協力を頂いています。

一方、国立大学は平成16年度法人化され、国の直接管理から解かれ自律性が与えられましたが、運営財源の大部分を占める運営費交付金は毎年1%程度ずつ削減されており、本学ではキャッシュフロー計算書上、平成23年度実績で16年度比5億円強の減少となっています。もはや国からの資金のみに依存する経営では、本学が特色を打ち出し、未来に向けた先進的な研究教育を行い、存在価値を高めることが難しくなっています。

さて、ご支援頂いている皆様の母校、電気通信大学は2018年12月8日に100周年を迎えます。この創立100周年をどのように祝うことができるか、まさに電気通信大学の“正念場”です。本学の理念は地球と人類の未来に明るい希望をもたらす人材の育成と、知と技の創造を謳っています。この理念のもと本学は、2008年に「UECビジョン2018～100周年に向けた挑戦～」を掲げ、「高度コミュニケーション社会」を支える科学技術基盤としての「総合コミュニケーション科学」の教育研究の世界的拠点を目指すことを宣言しています。教職員、学生そして目黒会様を含めた“オールUEC”でこの実現に挑戦し、社会から信頼され、多くの人がここを訪れ、ここで学ぶことに憧れる若者が殺到する、そんな「Unique & Exciting Campus」になります。そしてUEC基金がこの活動には欠かせません。この点を深くご理解頂き、ご協力をお願いします。無線電信講習所以来、歴史を背景とした技術の蓄積から新たな技術を生み、時代の要請に沿った先進的な教育研究を実践し続けている本学の同窓生である目黒会の皆様だからこそ、この点をご理解頂き、寄附を通しての格別のご支援を頂けるものと、私は確信しています。

電気通信大学の明るい未来は目黒会と共にあります。何卒宜しく願い申し上げます。

100年史編纂等のための写真等の提供のお願い

本学は、前身の（社）電信協会管理無線電信講習所から数えて、2018年で創立100周年を迎えます。

創立100周年を記念して実施する諸事業を推進するための一つとして、昔日の電気通信大学や無線電信講習所に関する写真、学生生活・サークル活動等の写真を求めています。また、写真以外にも貴重な資料等がありましたら、ご提供いただければと考えています。写真や貴重な資料等をお持ちの方はご一報いただけましたら、此方から折り返しご連絡を差し上げます。何卒、よろしくお願い致します。



1959年正門



1959年調布駅



1949年正門（現在の北門）

ご提供に当たって

- ・写真は、どのような状況でも差し支えありません。（ネガ、卒業アルバム、小冊子など）
- ・できましたら写真の撮影時期・内容を一言お書き添えください。
- ・お送りいただきました写真・資料等のご返却を希望される場合は、デジタル保存した後、速やかにご返送させていただきます。
- ・ご提供いただいた資料は、「電気通信大学100年史」等の記念事業に利用させていただくことをご了解ください。記念事業以外の目的に使用する場合は、事前にご連絡を差し上げます。
- ・資料に利用させていただく場合は、ご提供いただいた方の氏名等を記載させていただきます。
- ・公開に支障がある場合や公開範囲の制限が必要な場合には、内部資料として取り扱い、外部公開はしないようにしますので、その旨ご連絡ください。

受付窓口・お問い合わせ先

創立100周年記念事業推進室（担当：長沢、石坂）

住 所 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 国立大学法人 電気通信大学

電 話 042-443-5132

メールアドレス uec100th@office.uec.ac.jp

御退任記念祝賀会



平成24年度の電気通信大学御退任記念祝賀会は平成25年3月18日夜、調布クレストンホテルにおいて開催されました。本年は12名の先生方が定年を迎えられ、本学での活動にひと区切りをつけられることとなりました。

祝賀会は石川晴雄先生の司会で始められ、ご出席の10名の先生方がご紹介されました。ご挨拶は最初に梶谷誠学長からご退任の先生方のご尽力された功績への感謝の言葉と今後も変わらぬご協力をお願いがユーモアを交えて話されました。続いて安藤清副学長の御祝辞のあと理事の三橋渉先

生の音頭で乾杯が行われ、にぎやかに祝賀会が進められました。ご歓談が続く中で、ご退任される先生方から今までの活動についての感慨など、心のこもったご挨拶をいただきました。会もお開きにさしかかり、御退任者全員に田中健次副学長より気持ちを込めた記念品贈呈と花束贈呈が行われたのにつき、目黒会の安田耕平会長より祝辞とともに記念品が贈呈されました。そして、理事の福田喬先生より閉会の辞が述べられ、全員で集合写真を撮影して祝賀会は盛会のうちに終了となりました。



梶谷誠学長のご祝辞（要約）

まずは定年を迎えられた皆様にお慶びを申し上げますとともに、本学に多大な貢献があったことに御礼を申し上げます。今年もお別れのときが来たかと思うと大変さびしい思いがします。皆さんの顔を拝見すると大変ユニークでエキサイティングな方ばかりで、こうした方々が去られることは大変に辛いことです。毎年最終講義が楽しみで、今年も聴かせていただきました。凄い先生だったなど、もう少し早く聴いておけば、尊敬の念がもっと高かったかと思う次第です（笑）。今の時代で65歳はまだまだ若いので、今後もボランティアで本学にご貢献をいただければありがたいことです。また、ご家族とも人生を楽しむことを忘れずをお願いします。また、ご健康には十分お気を付けてお過ごしになってください。本日はおめでとうございます。

安藤清副学長のご祝辞（要約）

ご退任の皆様、区切りのときを迎えられ、おめでとうございます。来年は私もそちら側に座る立場になりますが、1年後輩としてご挨拶させていただきます。皆様方は終戦直後の昭和20年代にお生まれになったわけで、戦後の高度成長期、東京オリンピック、大阪万博などを経験されております。電通大においては人材の輩出や学生の指導にお力を戴いてきました。

さて、将棋連盟の米長邦雄さんが「世の中の大体の手（指し手）は悪手だ」と書いております。普段やっていることは、ちょっとした不注意で事故や事件にあってしまう、世の中悪手だらけだと書いております。皆様方におかれては悪手の海を渡ってこれ、今日区切りのときを迎えられたことは大変に喜ばしいことです。今後ともお元気に活躍なさってください。

三橋渉理事の乾杯音頭（要約）

僭越ながら乾杯の音頭をとらせていただきます。「この杯を受けてくれ。どうぞ、みなみと注がせておくれ。花に嵐の例えもあるぞ。さよならだけが人生だ。」ご存知、井伏鱒二の訳ですが、今後の皆様の健康を祝しまして乾杯を致します。乾杯！

安田耕平会長の祝辞（要約）

先生方、永い間電通大のために尽くしていただきありがとうございます。先生方の研究功績もさることながら一番の財産は研究室のOBたちが皆様を支えていくことと思います。目黒会は先生たちが電通大に入って来られてすぐに会員になり今も会員です。これからも会員でございまして、今後も目黒会にお立ち寄りいただければと思います。ささやかですが、記念品を差し上げたく思います。おめでとうございます。

福田喬理事の閉会の辞（要約）

皆様、本当に永い間ありがとうございました。時間と言うものは全ての人に平等に過ぎていきます。こういう時期をお迎えになるのは致し方ないのですが、平等に流れる時間の使い方は万人に許されております。今後とも自身のため、時間を有効にお使いください。私も3年前に先生方と同じ立場に立ちましたが現在、濡れ落ち葉状態ですが、先生方はそうならないようにお気をつけください。本当に永い間電通大のためにありがとうございました。

退任のご挨拶

平成24年度御退任者

教育研究職員

中嶋信生

福田 豊

村田 眞

山田幸生

小泉博義

丹羽治樹

樽井 武

太田敏澄

岡本敏雄

渡邊俊典

高橋光生

住谷 修

事務系職員

田野中陽子

田口みさお

ミネルバの梟と電気通信大学



総合情報学専攻 教授

福田 豊

桜繚乱のキャンパス風景は見事である。しかし、私が電気通信大学の季節でもっとも好きなのは、4月中旬から下旬にかけてである。もう約30年前になるが、私が赴任してきたころのF棟の前には、五月の空の到来を前に、サクランボの大きな木が枝が重くないかと思われるほどに多くの白い花を咲かせ、E棟の前にはスモモの木がかぐわしい香りを漂わせていた。そこはあたかもプリンスエドワード島(その頃私はL・M・モンゴメリに凝っていたのであった)かと思われるほどであった。

これらの愛しい樹木が伐採されたときには、本当にその悲鳴が聞こえてくるような気がしたものだ。武蔵野の原野の面影があちこちに残るといわれたそのころの電通大キャンパスの面影は今はない。

私とはある私学から赴任したのであったが、さすが国立大学であると感じたことがいくつかあった。そのうちの1つが、建物が古いこと。これは

皮肉ではなく私には好ましく思えたのだ。私にあてがわれた部屋には、蜘蛛の巣や煤がびっちりついていて、それはさすがに歓迎ではなかったが、それ以上に古さの持つ重厚さ、安定感のようなものを感じたのであった。そして時の流れが巷とは違って学問的なそれになっているようにも思われた。薄暗くひんやりした研究室の窓からはまぶしく輝くサクランボの花が風に揺れているのが見えた。「ミネルバの梟は黄昏に飛翔する」と言ったのはヘーゲルであったが、大学とはこのように上っ滑りに流れ去る時間を超えた普遍への接近を可能にする場であると私は信じている。

一般に最近の大学は、とても見栄えが良く最新ビジネスオフィスまがいの快適空間を提供してくれているようで、それはそれで建物としての魅力の1つであることは間違いない。ただ、大学という場合は、学術研究活動の精神の入れ物でもある。耐震構造を備えるとともに、知の熟成のための学術研究空間構造を備えてもらいたいものである。

ただ、断っておきたいのは古いことと、手入れをしないこととは別のことである。多くの私学では建物のメンテナンスや掃除にはとても気を遣っている。これに対して電気通信大学の新しい建物は、すぐ汚れてしまうような気がして残念である。

甦る桐の木



知能機械工学専攻 教授

山田幸生

電気通信大学での12年間を無事勤め上げることができ、皆様のご支援に心より感謝申し上げます。着任前は、学生の実力が分からず、卒業研究などの指導に不安や心配がありましたが、実際に指導してみると予想以上のパフォーマンスで予想以上の結果を出してくれる学生が続出し、大変感激したものです。私自身の卒業論文や修士論文の貧弱さを痛感しました。しかし、折角素晴らしい結果を出したにも拘わらず、私の実力不足により最終的に学術論文に仕上げるができなかった場合が少なからずあったことが非常に残念です。

さて、私は、学内のある植物に大変興味をそそられました。それは、東4号館隣の工場棟南の壁際に生える桐の木です。これは大変成長が早く、夏には1ヶ月ほどで背丈が1m以上になり、直径が50cmもあろうかというような大きな葉をたくさん茂らせます。しかし、壁際に生えるため雑草と同じに扱われ、1m程度になると伐採されます。ところが、年に数回伐採されてもそのたびごとに不死鳥のように若葉を出して再び成長を始めます。何度切られても再び若葉を出し、大きな桐の木になろうとするその姿に大変勇気付けられて無事定年を迎えることができた、というのは少し大げさですが、一種の感動を覚えたのは確かです。

電気通信大学も大変厳しい時代を迎えることがあるかもしれませんが、あの桐の木のように甦り、益々その存在意義を高めて発展されることを心より願うと共に、皆様のご健康とさらなるご発展、ご多幸を祈念いたします。

退任のご挨拶



先進理工学専攻 教授

丹羽治樹

電通大に赴任してから19年、光陰矢の如しとはよく言ったものです。学科名が目まぐるしく変わりました。幸い講義内容は変わりませんでした。むしろ4色チョークと黒板からプロジェクターとスクリーンへと講義スタイルは様変わりました。電通大で1、2位の悪筆と、板書を消す速さのため、学生はずいぶん苦労したと思います。試験は「A4・2枚までの手書きレジメ持参可」で、これで救われた学生も多かったと思います。「教科書を見ながらレジメを作っているうちに、先生の意図がわかりました。試験はレジメを見る必要がありませんでした」と言ってくれたのはうれしかった。

さて、今、眼前に待ち構えるエネルギー、環境、食料、医療などの課題は単独の学問領域だけでは解決できないものばかりであります。問題解決に当たってはこれまで以上に異分野間のコミュニケーションと協同作業が必要となる。電通大には狭い専門に閉じこもることのない、異分野協同・コミュニケーション能力を持つ人材が育つ環境が整っている。化学、生物が解るロボット・人工知能開発技術者、マックスウェルの方程式が解り、電子回路が設計できる化学・生物屋さん、化学・物理・生物に対してバリエーションを感じない情報技術者、社会はこのような人材を欲しています。こんな人材を社会に送り出すことにこそ電通大の存在価値はあると思います。電通大の更なる発展を期待しております。

ささやかな一歩前進



共通教育部 教授
樽井 武

縁あって電通大に来て6年半が過ぎ、早くも退職の時となりました。私の仕事は、学生に英語を教えるとともに、e-learningを活用した言語自習室の企画・運営でした。理科系大学の学生は、実験やら研究論文の準備等に忙しく、じっくりと英語を学びたいという気持ちを持っていたとしても、なかなか学習する時間が取れないのが実情のようです。従って、いつでも、どこでも、自由に学ぶことができるWeb siteを活用したe-learningの英語学習プログラムが効果的であると考えました。

ここ2、3年の間に、大学院修士、学部3年次に「技術英語」が導入され、入学から修了まで一貫した英語学習に近づきつつあります。またグローバル社会で活躍するための国際会議や、様々な海外交流プロジェクトも増えてきました。カリキュラムでの英語を学び、このようなプロジェクトに参加するための準備訓練のための新しい試みも始まりました。言語学習支援室（旧言語自習室）、外国語運用工房（楽力プロジェクト）そして、このような組織の企画・運営を担当する実践的コミュニケーション教育推進室等の開設に関係したのも幸いでした。英語を道具として活用し、学生が技術者・科学者として来るべきグローバル社会で活躍するお手伝いができるからです。

教育の場では、「教えることは学ぶことである（Teaching is learning）」と言われますが、本学では学生との英語の学習を通して多くのことを学ぶことができました。学生諸君に感謝いたします。高校を卒業したばかりで人間的にも自信のない学生が本学の教育力で一人前の技術者・科学者になる教育に貢献できたことは喜びでもあり、誇りで

もありました。このような素晴らしい学びの舎としての電通大の今後のさらなる発展を期待しています。

退任のご挨拶



大学院情報システム学研究科 教授
太田敏澄

退任を迎えて、皆様にお世話になりましたことにお礼を申し上げます。本学へは、1993年4月大学院情報システム学研究科情報ネットワーク学専攻が設置されたときに赴任し、翌年には、情報システム運用学専攻、2007年からは、社会知能情報学専攻と19年間に亘り、お世話になりました。

この間、APT/HRD（Asia Pacific Telecommunity / Human Resource Development）の公募プロジェクト7件を通じて、多くのことを学ぶことができました。なお、7件目のプロジェクトは、現在、実施中となっています。

国際共同研究の重要性は、1981—1982年の間、ペンシルバニア大学ウォートン・スクールに客員研究員として研修の機会を得たとき以来、心に留めておりました。幸いにして、2002年、APT/HDRのプロジェクトのコーディネータとして、ドル建てのプロジェクトを運営しました。この経理で税務署を訪ね、経費の説明をし了解が得られましたが、最後に税務署員の方から、「謝金はないのですか」と尋ねられ、「ありません」と答えると、税務署員の方から「何故、このようなプロジェクトをやったのですか」と不思議そうに尋ねられた次第です。

そのような中、4件目のプロジェクトの折、そのメンバーから博士後期課程留学の希望が寄せられました。Padjadjarang 大学医学部在職の医師

Sutiono氏は博士後期課程を修了し、弊研究室でJSPSの外国人特別研究員として活躍してくれました。また、同メンバーで、共同研究先Telekom R&D Center在職のQiantori氏も博士後期課程を修了し、帰国しました。

最近の国際情勢から致しますと、国際的なプロジェクトを通じての研究・教育は、その重要性を増すと考えております。本学の一層の国際的発展を祈念しつつ、退任のご挨拶とさせていただきます。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。

自分なりの情報システム学探求



大学院情報システム学研究科 教授
渡邊 俊典

情報システム学（IS）研究科発足の年に着任し21年が過ぎました。以前は日立勤務で、電通大OBの設計部門などでの活躍を知っていたので、大変うれしい気持ちで着任しました。情報システムの対象は、狭義には計算機科学、広義には生命、法律、経済などと広範です。そこで、研究は狭義領域で、教育は広義領域で取り組むという両輪を回しました。前者で取り組んだ画像認識では、本学の得意領域である情報理論の諸先生や学生とのご縁を糸口として、対象の統計モデルを必要としないKolmogorov複雑度ベースの認識方式を探求しました。後年、EU諸国の衛星画像解析研究者との交流につながりました。後者では、多様な領域のシステムを横断的に表現するためのペトリネット拡張表現を開発し、この上で様々なシステムの表現や解析をおこなう、(自称) 世観（せみ）学を長年講義しました。受講感想には、驚き・感動・発見、考え方・発想法を学べた、などが多く寄せられました。20年余りの探求を通じ、IS

学の主要課題は、計算機やネットワーク技術を利用した増大一方の人類知識の管理運用方式だと思われるようになりました。この観点からは、IS学は人類史的課題であり、息長く取り組む必要があると思います。21年間はその探求には短く、今後も研究を続けたいと思います。楽しい21年間、本当に有難うございました。

定年を迎えるにあたって



学生課
田口 みさお

定年前に学生の就職支援を担当できたことが、一番の思い出となりました。

思い返せば、高校時代の弁論大会に出場する機会があり、これからの女性は経済力も必要と考え「社会婦人を目指して」と題して発表しました。高度経済成長の波に乗り35年間働くことができました。その間にいろいろな法律が改正され、私の新人時代は教授会のお茶くみから始まりましたが、今では女性の労働力も日本の経済を支える大きな柱となっています。リーマンショックに端を発した世界的経済不安から学生の就職が厳しさを増しています。最初は挨拶もできなかった学生が、内定を得る頃には、帰り際に“ありがとうございました”と言えるようになり卒業が近づくのを感じます。私も卒業するにあたり、これまでのご厚情に感謝申し上げます。

“ありがとうございました”

目黒会の正会員になって、 より豊かな人生を送りませんか？

目黒会は会員の皆様をご支援いたします

1. 正会員のメリット

目黒会は、具体的に、何をしてくれるの？

年金生活中だが、
趣味の仲間を増やしたい。
地域の仲間との交流を深めたい。

地域・支部活動に
ご参加いただくことで交流を促進し、
目黒会はその支援をしています

会社に勤めているが、
リストラに該当しそうで
再就職の相談を行いたい。

就職活動支援のプロが相談にのり、
会社探索など支援します

技術的な行き詰まりを感じており、
技術力のUPを相談したい

目黒会は電通大TLOの紹介や
新技術説明会など、
産学連携活動を支援しています

ご自身の技術力UPの場合は、
その技術にあった先生方や
社会人ドクターの道を紹介します

ビジネスの拡大・強化の為、
異業種の方達と交流を深め
可能性を探りたい

目黒会本部や支部の講演会・交流会に
参加する機会を大いに活用していただく

社会が求めているニーズや
新しい技術を知りたい

目黒会の本部ではタイムリーな話題で
講演会や現地見学会を行っており、
参加できます

昔の仲間にも再会して
旧交を温めたい

クラス会・同期会で
仲間の連絡先が不明なときは、
目黒会を大いに利用してください

2. 地域活動の紹介

地域・支部活動に参加して、交友を深めよう

共通な趣味・スポーツの
サークルに入りたい

手軽な近距離旅行を
楽しみたい

講演会などで
知識を増やしたい

仲間を増やして
生活に潤いを広げたい

学生時代の仲間と
語り合いたい

ビジネス拡大の
手がかりを掴みたい

現在、以下の支部で毎年支部総会、懇親会が開催されております。

国内：北海道、東北、首都圏、東海、関西、広島（中国）、四国、九州

海外：韓国、北京、上海、タイ、アメリカ

平成 23 年首都圏総支部行事例



3. 正会員入会について

- 電気通信大学を卒業すると、全員普通会员です。普通会员には、教職員も含まれます。会費を納めて頂くと、その時点で正会員になります。
- 過去にさかのぼって会費を求める事はなく、今年分からで結構です。正会員入会手続きの詳細は、目黒会ホームページまたは、目黒会事務局へ E-mail・電話・FAX で、お問い合わせください。

<http://megurokai.jp/>

E-mail : info@megurokai.jp

Tel. 042-482-3812

Fax. 042-482-3845

目黒会正会員限定 労務相談スタート！

電通大OBの社会保険労務士があなたの相談に応じます。

趣 旨

この労務相談は目黒会が「正会員の特典のより拡大・充実する活動」の一環として行うものです。

内 容

労務問題での悩み事や疑問について、電通大OBの社会保険労務士（以下、社労士）にご相談いただき、その費用を目黒会が負担するというものです。

対 象

労務に関する相談事（雇用契約、解雇、労働時間、セクハラ、パワハラ、メンタル、育児介護など）。雇用保険、労災保険、健康保険などの手続きに関する事。
ただし年金は対象外とします。

正会員とは…

目黒会の普通会員（電気通信大学の卒業者、中退者、教員とそのOBなど）のうち、当年度の会費を納めていただくと目黒会の正会員となります。過年度の未納分は問いませんので支払は不要です。また、年度の途中からでも会費納入は可能です。長期前納制度もあります。
詳しくは目黒会HPを参照してください。

相談の手順

- 1 目黒会HPより「相談申込書」をダウンロードしてください。
- 2 「相談申込書」に必要事項を記入し、目黒会事務局までメールでお送りください。
- 3 事務局にて記載事項を確認の上、相談員（社労士）へ転送します。
- 4 相談員（社労士）が内容を確認し、相談者からの電話相談を受けられる日を相談者にメールで連絡いたします。
- 5 相談者は、相談可能日後に相談員（社労士）へ電話を掛けて直接相談員（社労士）とお話しいただき、ご相談ください。もしその時に相談員（社労士）が不在の場合には、その時点で相談員（社労士）の在席日時を社労士事務所の方よりお聞きいただき、改めてお電話してください。



※当初からの日時指定は、お互いのスケジュール調整上無理がありますので、この点で理解ください。

お問合せ先



E-mail info@megurokai.jp
目黒会HP <http://megurokai.jp/>

第70回 目黒会定期総会開催のお知らせ

日 時 平成 25 年 5 月 24 日(金) 17:15 ~ 18:15

会 場 電気通信大学内 創立 80 周年記念会館(リサーチ) 3 階

目黒会は一般社団法人への移行にともない代議員制に移行しましたので、定期総会は正会員から選任された代議員で構成されます。代議員以外の正会員は総会に出席することはできませんが、議決権は代議員のみに与えられておりますので、予めご了承ください。

なお、「総会」および「懇親会」にご出席いただける方は、目黒会ホームページの「定期総会のご案内」より入り、お申込みいただきますようお願いいたします。(今回から「出欠はがき」は使用しません)

議 題

決議承認事項 第1号議案：平成24年度の事業報告並びに決算報告書（財務諸表）の承認について

第2号議案：当期正味財産額の処分の承認について

第3号議案：その他

(注：定款の定めにより事業計画および年度予算は総会審議事項ではなくなりました)

報告事項 一般社団法人への移行に関連して

1. 変更点の概要
2. 新法人の運営体制について
3. その他、質疑応答など

同時開催の行事のご案内

学長特別講演会

根谷 誠 電気通信大学長にお話をいただく予定です。

日時：平成25年5月24日(金) (同日) 16:30 ~ 17:00

会場：電気通信大学内 創立80周年記念会館
(リサーチ) 3階 (総会会場と同一)

演題：未定

総会懇親会

日時：平成25年5月24日(金) (同日) 18:30 ~ 20:00

会場：大学会館3階 レストラン「ハルモニア」
会費：5,000円 (会費は当日申受けます)





日本初のプロスポーツ選手のハローワーク

「Jリーグキャリアサポートセンター」 設立奮闘記

Vol. 1

株式会社ジャパンアスリートキャリアサポートセンター 代表取締役社長

八田 茂

リクルート初のJリーグ出向人事

2001年9月、その人事発令は突然言い渡された。「10月1日からサッカーのJリーグの事務局に出向してもらいます。」リクルートのサッカー部員でも学生時代のサッカー経験も無い自分がJリーグで何をやるのか？ 当時の上司に尋ねると、「Jリーグが選手の引退後のキャリア支援をする部署を立ち上げるので、その責任者をしてもらいます。」との返事。ここから私のJリーグでの奮闘記は始まった。

川淵三郎との出会い

9月下旬にJリーグの事務局を訪ねて、そこで初めて、当時のチェアマン川淵さんとお会いした時の事は、まるで昨日の事のように覚えている。「おお、君が八田君か。まあ座れ」とそれから1時間余り、なぜJリーグを立ち上げたのか？ Jリーグは何を目指しているのか？ その中で八田の役割は何か？ を一方的に、熱く語ってくれた。まさにビジョナリスト川淵三郎の片鱗に触れた瞬間だった。そして私は、初めての出会いから、1時間後には完全に彼のファンになってしまった。

選手会長ゴン中山の言葉

Jリーグキャリアサポートセンター（略称CSC）は選手会との連携事業だった。当時の選手会長は

この度引退したゴン中山。ちなみにCSC設立の直訴を川淵さんにしたのは、前任の井原選手会長。ゴンちゃんとは、当時頻繁に会話をした。その会話の中で忘れられない言葉がある。「八田さん、確かに現役のうちから引退後の事を考えるのは重要だけど、俺でも引退後の事を考えると不安でたまらなくなるよ。だから俺は心の中でその事に蓋をしているんだよ。」当時の副会長鹿島アントラーズの秋田豊、ガンバ大阪の宮本恒靖も同様な事を言っていた。その時、自分が課せられたミッションが如何に難度の高い事業かを思い知った。

鹿島アントラーズで感じた寒い雰囲気

2002年4月のセンター発足以降初の選手向け説明会は鹿島アントラーズだった。気合いを入れて話を始めて選手の顔を眺めると、ほとんどの選手がこちらに視線を向けずにいる。これはヤバイと思ったが後の祭り。後で秋田と話してみると、案の定、先のゴンちゃん達と同様で、当方のメッセージはまるで「地獄の使者からの言葉」のように聞こえていたとの事だった。思わず今後の対策に頭を抱えた。

突破口になったOB交流会

信頼できる数人の引退選手に鹿島での状況を伝え対策を相談をした中で出てきたのが、引退選手から同様なメッセージを発信してもらおう事だっ

た。「あいつらは自分と同じ世界にいた人間の話しか聞かないから」このアドバイスから引退選手がクラブに行き選手の前で、自身の体験談を踏まえ引退後に向けた啓発啓蒙の講演をする「OB交流会」の企画が立ち上がった。浦和レッズOBで当時埼玉県浦和市議田口禎則さん、JEF市原OBで解説者の宮澤ミッシェルさんなどたくさんのOBの献身的な協力でCSCの存在とサービスは徐々に浸透していった。

インターンシップは「ゼロ」からのスタート

OB交流会のヒットで調子に乗って、Jリーグの幹部の忠告を無視して、シーズンオフのインターンシップ企画を立ち上げた。しかし結局初年度の希望者は0、あえなく大失敗となった。彼らにとっては短いシーズンオフに貴重な休みを削って無報酬の体験をさせるには、あまりにも唐突だった。翌年のリカバリーに向けた対策は、アメリカのNFLのインターンシップのプロモーション



ビデオの巡回上映だった。「NFLの選手に出来てJリーグの選手に出来ない訳がない！日本のプロスポーツ選手で初めてやるのは君たちだ！」今思えば無謀なメッセージだったが、2年目には3人の選手が手を挙げてくれた、その一人は、今の選手会長で、昨年のJリーグ覇者サンフレッチェ広島キャプテンの佐藤寿人だった。プーマジャパンでの三日間のオフィスと店舗での体験だった。3年目以降は徐々に参加者が増え50人近くが参加する一大イベントに育っていった。

ECC無料英会話は大盛況

彼らJリーガーが、いやプロスポーツ選手が如何に実利に敏感か痛感したのが、英会話ECCの無料受講制度導入時の反応だった。リクルート時代の縁で、ECC幹部にネゴして1クラブで最大年間5人までECCの基本コースが無料になる企画だった。当時のJ1・J2クラブ28クラブで140人の応募枠に対して、200名を超える選手の申し込みがあり受講者調整に大いに手間取った。鳴り物入りでスタートした制度だったが、半年も経たないうちにほころびが出てきた。物珍しさで受講を始めた選手が月日を経つたびに受講をしなくなっていった。シーズン中の多忙さや英会話の難しさ、そして何と言っても身銭を切っていない気楽さが仇となり、シーズンが終わってみると年間フル受講した選手が全体の2割弱という惨憺たる結果になってしまった。この手痛い経験がのちの、受講満了後に受講料の8割を補助する「就学支援制度」の発足につながっていった。

Jリーグ選手のための就職情報誌

自分が就職情報誌の営業マンからリクルート人生をスタートしたので、この仕事を拝命した時から、日本で初めてのプロスポーツ選手向けの就職情報誌の創刊を考えていた。リクルートで長年情報誌の編集長を務めたサッカー好きな元同僚を

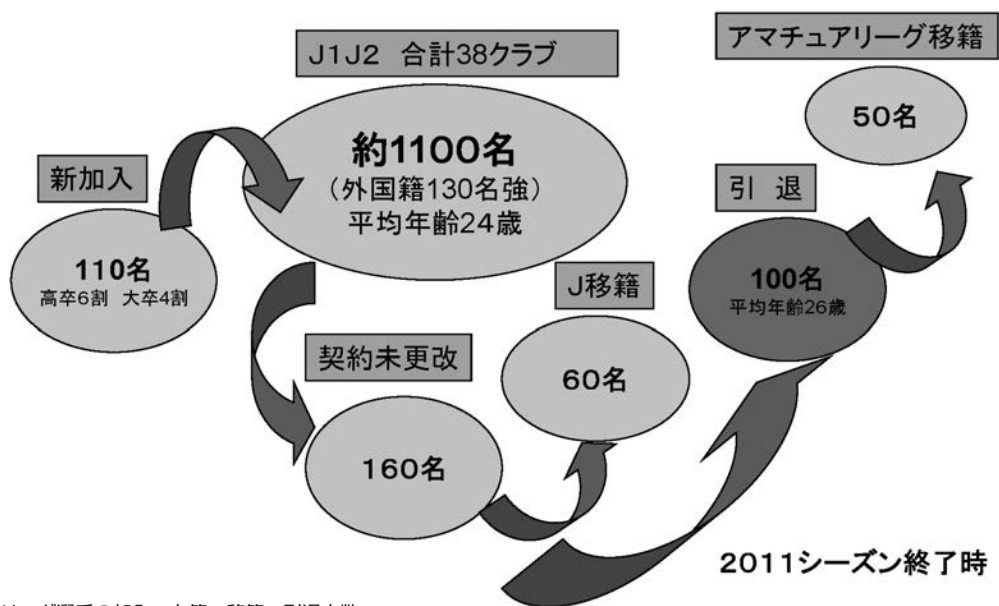


図1 Jリーグ選手の加入・在籍・移籍・引退人数

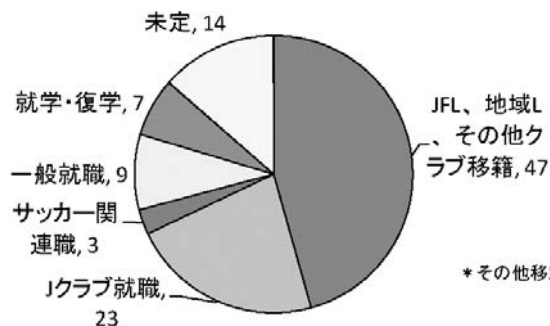
拝み倒して編集長になってもらい、リクルートのサッカー好きな制作ブレンを組織化して、豊富な先輩談や具体的な求人情報をまとめたJリーガー向けの就職情報誌「オフザピッチ」を2002年11月に創刊し、大きな反響を得た。

Jリーグ選手の加入・在籍・移籍・引退人数

2002年当時からクラブ数も10以上増えた(2013年J1・J2合計40クラブ)がシーズン終了

後にJリーグを除籍(引退)された選手人数分が新加入選手として加入し、除籍された選手の半数以上はJリーグの下のアマチュアリーグ(JFLや地域リーグ)で選手を続行、スパイクを脱ぐ選手の大半は指導者になっていくという構図は当時も今も大きくは変わっていない。引退平均年齢は26歳(プロ野球は29歳)、様々な競技の中でも最も裾野が広く、その競技の指導者で食べて行く事の出来る最も恵まれた競技がサッカーだ。この事の功罪は大きく、だから現役時代に引退後の事

2011年シーズン 計103名



* 参考 2010年シーズン 計147名 (2011.3.31時点)

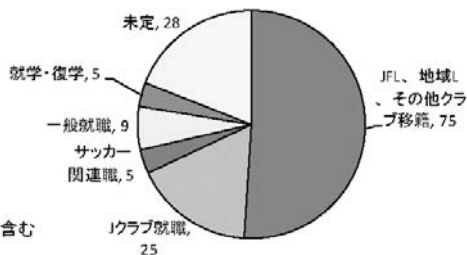


図2 Jリーグ選手の引退後の進路

を考えない選手が大半を占める現状がなかなか改まらない。(図1)

Jリーグ選手の引退後の進路

円グラフの通り、半数はアマチュア選手続行、就職先で最も多いのはJクラブコーチ、一般企業への就職は1割、近年増えているのは、大学への復学、進学だ。未定の選手は公務員試験待機、プロ再チャレンジなどの、言わば浪人組だ。ここ5～6年でJリーグを目指すクラブが全国に増え(20～30クラブ)、そのクラブに助っ人元Jリーガーとして移籍する選手が増大中だ。(図2)

PDCA マインドこそCSCの極意

2001年10月にJリーグ事務局に出向して、CSC設立を取り巻く環境をマーケティングして、2002年1月に4月以降のCSC設立の事業計画を、川淵さんを含む当時の幹部にプレゼンした時だった。それまでのリクルートでの経験を元に自分なりに合点のいく事業計画を立案したが、正直成功の見通しは全くなかった。その意味では相当気合い先行のプレゼンだった。私のプレゼンを全て聞き終えた後に川淵さんが一言。「八田さんの計画

通りにやって下さい。とにかく日本初のプロジェクトなのだから、PDCAの精神を発揮して、諦めずにやって下さい。Jリーグを立ち上げた時も成功の見通しなんて全くなかったからね。大きな理念だけを頼りに始めて後はPDCAの繰り返しだったから。」この時の川淵さんの言葉が、私がCSCの事業を立ち上げていく上での信条になっていった。もちろんリクルートの20年間もこの精神でやってきたが、畑違いのサッカー界でもこの精神でやって良いと、当時のカリスマトップにお墨付きをもらえた忘れられない瞬間だった。それから11年間CSCはいつもこの精神でやってきた。たくさん関係者を巻き込んで、常にチャレンジングな目標設定を行い、がむしゃらに行動し、シビアに結果を評価し、必要な修正を繰り返す、これを繰り返していくうちに、少しずつ道は開け、応援者のネットワークも広げながら、ステージを登ってきた。日本初のプロスポーツ選手のハローワーク「Jリーグキャリアサポートセンター」はこうしてJリーグの一角にポジションを獲得し、その後のプロ野球や日本オリンピック委員会の同様な組織の設立に波及していった。

筆者紹介



株式会社ジャパンアスリートキャリアサポートセンター
代表取締役社長

八田 茂 (56歳)

1978年 青山学院大学経済学部卒業後、日本リクルートセンター(現リクルート)に入社し、主に人材系の採用コンサルティング・教育研修・新規事業に従事する。

2001年社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)事務局に出向し、キャリアサポートセンターの設立責任者となる。その後独立し2008年から財団法人日本オリンピック委員会の同様な組織JOCキャリアアカデミーの設立責任者となり現在に至る。

UEC・NOW

電気通信大学はいま

電気通信大学や目黒会の様々な取り組みの中から、特に産業や社会との関係性の高いニュースをピックアップ。新たな価値創造に向けて力強い歩み続ける電気通信大学の「今」をレポートします。

CONTENTS

- ① コンピュータ囲碁の進歩と本学の取り組み
- ② サービス・サイエンス ― サービスや教育の質向上のための異質性の分析 ―
- ③ 平成24年度 就職委員会活動報告

UEC・NOW ①

コンピュータ囲碁の進歩と本学の取り組み

電気通信大学 エンターテインメントと認知科学研究ステーション 代表 情報理工学研究科 助教 伊藤毅志

1. 思考ゲームAI研究の中の囲碁

1997年にIBMのモンスターマシンDeep Blueが当時のチェス世界チャンピオンのカスパロフ氏に勝利を収めてから、はや15年以上が経過した。

日本のチェスライクゲームの代表格「将棋」は、2010年に、情報処理学会の特製プログラム「あから2010」が清水市代女流王将に勝利し^[1]、2012年に、「ボンクラーズ」という将棋プログラムが、米長邦雄永世棋聖に勝利するなど^[2]、コンピュータ側が今のところプロ棋士に対して連勝している。本誌が発行される時期には、第2回電聖戦（プロ棋士VSコンピュータの5対5の対戦）が行われているだろう。どのような結果になるかは神のみぞ知るところであるが、Xデー（コンピュータが人間のトップに勝つ日）は確実に近づいているという印象を受ける。

「囲碁」というと、合法手（ルール上選べる手）の多さと評価関数（どちらがどれくらい強いのかを数値化する関数）の設計の極端な難しさで、チェスや将棋で成功しているゲーム木探索の手法が全く使えず、長くコンピュータ囲碁の進歩を拒んできた。

コンピュータ囲碁の大会などでは、時々強いプログラムと人間との置碁による対戦も行われてきたが、人間には全く歯が立たないという状況であった。2006年まで、岐阜県の主催で開催されてきた「岐阜チャレンジ」というコンピュータ囲碁の大会においても、優勝プログラムは、エキシビジョンマッチで、プロ棋士はおろかアマチュアの少年を相手に9子のハンデ戦で対戦するのが精一杯というレベルであった。

しかし、2006年に現れた「モンテカルロ木探索」という新しい手法が状況を一変させる。

2. モンテカルロ木探索

モンテカルロ法とは、乱数を用いた膨大なシミュレーションから求めることが難しい値を推定する数値解析の手法の一つで、コンピュータ囲碁では、ある局面から膨大なランダム対戦（実際はパターン知識を用いた知的なシミュレーション）を行うことで、その手の勝率を計算する。これによって、困難を極めた評価関数の設計を避けて、その手の勝率という形で手の評価値を得ることが出来るようになった。

しかし、単純にモンテカルロ法を使うだけでは、

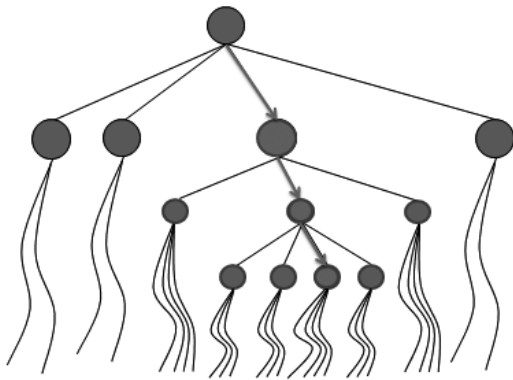


図1 UCTによるモンテカルロ木探索の概念図

強さを手に入れることは出来なかった。この手法にUCB (Upper Confidence Bound) と呼ばれる計算手法を組み合わせることで、画期的な強さを手に入れたのだ。UCBとは、複数のどれくらいコインが出るかわからないスロットマシンがあるとき、どのマシンにどれだけコインを費やすべきか？という最適化問題 (N腕バンデッド問題と呼ばれる) を解くための計算手法である。コンピュータ囲碁のモンテカルロシミュレーションにおいても、すべての候補手を均等に計算するのでは効率が悪い。「候補手の中でなるべく勝率の高い手に計算資源を割り振りたい」という問題は、このN腕バンデッド問題と類似の問題であると考へ、この手法を使って計算効率を上げる手法が提案された。より勝率の高い手ほど計算資源を増やし、ある一定以上シミュレーションを行ったら、さらにその次の手に対して、同様のことを繰り返す仕組みを導入した。

図1はこのアルゴリズムの概念図であるが、UCT (Upper Confidence bound for Tree search) と呼ばれるこの手法によって、コンピュータ囲碁は飛躍的に進歩することとなった^[3]。

3. UEC杯の開催から覚書締結まで

2006年まで岐阜県が主催で行なってきた「岐阜チャレンジ」が諸般の都合で終了することになり、2007年には国際的にも大きなコンピュータ囲碁の大会が開催されない可能性が高くなった。折しも、上述のようなモンテカルロ囲碁プロ

グラムが出現し、コンピュータ囲碁の新しい潮流が生まれつつある時期に、何らかの形でコンピュータ囲碁大会を開くことは出来ないか？という話になった。

そこで、2006年から活動を始めた本学の「エンターテインメントと認知科学研究ステーション」が主催となり、これまで岐阜チャレンジの運営に携わっていたコンピュータ囲碁フォーラムの協力のもと、UEC杯コンピュータ囲碁大会を開催することとなった^[4]。

予算もない状態からのスタートだったので、運営はコンピュータ囲碁の開発に理解のある研究者や開発者と、本学の村松正和研究室と私の研究室の学生中心のボランティアによって成り立っている。

日本棋院の鄭銘コウ九段は、自身もコンピュータ囲碁のプログラムを開発した経験のあるプロ棋士で、薄謝にも関わらず毎年コンピュータ囲碁の解説を行なってくださっている。青葉かおり四段も、第1回から、ご協力いただいているプロ棋士である。

こうした協力者に支えられ2007年から2011年まで毎年12月上旬頃に開催してきたコンピュータ囲碁大会であったが、昨年、学長顧問から本大会に対して支援していただける可能性のある企業として「株式会社ナガセ(東進ハイスクール/東進衛星予備校)」をご紹介いただき、今年の運営費についてはご協賛をいただけることになった。

この支援を受けて、コンピュータ囲碁大会に賞金を出し、さらに、これまでエキシビションという形で行なってきたプロ棋士との対戦に賞金を出して、定期公式戦に出来ないかという話が浮上した。

非常にありがたい話であるので、大会に賞金を出すためのレギュレーションの改定が必要であると考え、これまで運営にご協力いただいていた先生方を集めてルール委員会を組織し、ルールの見直しを図った。また、プロ棋士との公式戦(「電聖戦」^[5]と命名された)で必要なことを洗い出し、こちらもレギュレーション作りを行った。

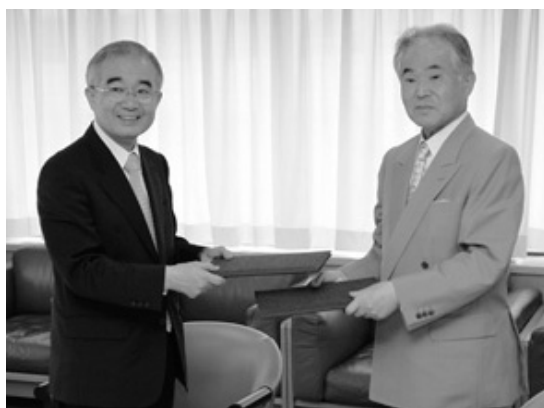


写真1 覚書に調印する梶谷誠学長（左）と大竹英雄日本棋院理事長（右）

同時に、これらのイベントは日本棋院の協力なしでは実現し得ないことなので、早急に日本棋院に本件を打診した。日本棋院としてもコンピュータ囲碁の発展とその進歩には興味を持っているとのことであった。またその一方で、コンピュータ将棋がトッププロ棋士に勝ちそうな勢いであるということも対岸の火事としてではなく、いずれ囲碁でも起こりうる可能性のあることとの認識があり、その進歩を見守りつつも、良い関係を築いて行きたいという想いを持っていたいただいていることがわかり、こちらの趣旨とも合致した。

そこで、日本棋院と電気通信大学の間でコンピュータ囲碁に関する提携を結び、コンピュータ囲碁と人間のより良い形の発展を期していききたいということになった。

調印式は、2012年6月に日本棋院市ヶ谷本院にて行われ、日本棋院の大竹英雄理事長と本学の梶谷誠学長の間で覚書が交わされた。覚書では、1) UEC杯コンピュータ囲碁大会の開催、2) プロ棋士と囲碁プログラムの公式対局イベントの開催、3) プロ棋士を交えた囲碁の研究、4) 囲碁を題材にした授業の検討、の4つが記載され、本学が日本棋院とともにコンピュータ囲碁発展の中心的役割を果たしていくこととなった^[6]。写真1はその調印式の模様である。

4. 現在のコンピュータ囲碁の実力

この覚書締結の話が進んでいる中、プロ棋士との定期戦「第1回電聖戦」の前哨戦的なイベント



写真2 Zen（左）と武宮正樹九段（右）の対戦の様子

として、2012年3月17日に『コンピュータ囲碁がプロ棋士に挑戦！』というイベントを開催することとなった^[7]。

コンピュータ側は、2011年にUEC杯で優勝した囲碁プログラム「Zen」（国産初のUEC杯優勝）が九路盤の互先（ハンデ無し）で大橋拓文五段（当時：本年1月に六段に昇段）に挑み、十九路盤では5子の一番手直り（コンピュータが勝てば次は4子、人間側が勝てば次は6子）で、武宮正樹九段に挑むこととなった。

九路盤は、盤が狭いこともあり、コンピュータが有利であると言われているが、それでもまだ人間のトップを凌駕したとは言いがたい。一方、十九路盤では、武宮正樹九段相手に、当時の下馬評では、5子のハンデは人間側が有利ではないかと言われていた。写真2は武宮正樹九段とZenの対戦の様子である。

しかし実際は、九路盤では先後入れ替えて1勝1敗、十九路盤ではZenが5子だけでなく4子のハンデでも勝利を収める結果となり、大きな注目を集めた。

九路盤囲碁は、その後も2012年11月25日（調布祭期間中）に『コンピュータ囲碁がプロ棋士に挑戦 ～九路盤ガチンコ対決～第2弾』というイベントが開催され、一力遼二段（当時：本年1月に三段に昇段）、大橋拓文五段（当時）、蘇耀国八段とZenが再戦し、先後合計6局行ったが、結果は人間側の全勝となった^[8]。結果は一方的だったが、内容的には非常に接戦で、途中までは

コンピュータ側が良い局面も幾つかあった。このイベントの詳細は、情報処理学会誌の特集^[9]をお読みいただきたいが、ある意味プロ棋士の底力を見せつけたイベントであった。

モンテカルロ以前からは想像もつかない勢いで、コンピュータ囲碁は進化を続けている。九路盤は数年後にはXデーが来てもおかしくないとされるが、置碁と互先は明らかに異質であるので、十九路盤はこれから先がもしかすると大変なのかも知れない。

これらの対戦を通して、将棋のようにゲーム木探索で決定的に手が決まるわけではなく、乱数シミュレーションを行なっているモンテカルロ囲碁は、特有の思考を行なっていることがわかってきた。意外と序中盤で人間の気づけなかったような手が現れて、それが攻手であることがあったり、終盤のヨセの部分でトンデモナイ悪手を打ったりと不思議な特徴を示す。

コンピュータと人間は全く別の角度から囲碁というゲームを分析しているわけで、コンピュータ囲碁が強くなるにつれて、人間が思いもよらなかった序盤戦術が生まれる可能性もある。このイベントを通して、コンピュータと人間が織りなす新しい世界が広がっていくとしたら、とても魅力的ではないだろうか。

当研究ステーションでは、これからも色々なイベントを行なっていく予定である。興味を持っていただけたら、時々研究ステーションのHPをチェックしていただければ幸甚である^[10]。

参考文献

- [1] 特集「あから2010勝利への道」、情報処理2011年2月号(2011).
- [2] 米長邦雄：われ敗れたりーコンピュータ棋戦のすべてを語る、中央公論新社(2012).
- [3] 吉添一樹、山下宏、松原仁：コンピュータ囲碁 ― モンテカルロ法の理論と実践 ―、共立出版(2012).
- [4] UEC杯コンピュータ囲碁大会HP：
<http://jsb.cs.uec.ac.jp/~igo/>
- [5] 電聖戦HP：
<http://entcog.c.ooco.jp/entcog/densei/>
- [6] プレスリリース「公益財団法人 日本棋院と国立大学法人 電気通信大学がコンピュータ囲碁の進化に向けた提携に調印！」：
<http://entcog.c.ooco.jp/entcog/teikei.pdf>
- [7] エンターテイメントと認知科学研究ステーションシンポジウム特別イベント「コンピュータ囲碁がプロ棋士に挑戦！」：
<http://entcog.c.ooco.jp/entcog/event/20120317/humvscom.html>
- [8] 「コンピュータ囲碁がプロ棋士に挑戦～九路盤ガチンコ対決～第2弾」：
<http://entcog.c.ooco.jp/entcog/event/event20121125.html>
- [9] ミニ特集「コンピュータ囲碁の最前線 ～九路盤囲碁のイベントから～」、情報処理2013年3月号(2013).
- [10] 電気通信大学エンターテイメントと認知科学研究ステーション：
<http://entcog.c.ooco.jp/entcog/>

UEC・NOW ②

サービス・サイエンス -サービスや教育の質向上のための異質性の分析-

電気通信大学 情報理工学研究科 総合情報学専攻 教授 椿 美智子

1. サービス・サイエンス

21世紀に入り、世界経済の中でのサービス分野の占める割合が非常に高くなっており、日本でもGDP、従業者数共に70%以上となっている。また、世界的にも主要国で同じように70%を超えている状況である。表1は、日本標準産業分類に基づくサービス産業の分類表であるが、サービス分野の幅はかなり広いことがわかる。本学卒業生の皆さんも、製造業でご活躍の方々も多いと思いますが、サービス分野でご活躍の方々も多いのではないのでしょうか？

しかし、サービス分野の生産性は製造業等と比べて低いと言われており、その向上が強く求められ、サービスに関する研究の必要性が高まっている。そこで、サービス・サイエンスという学問分野が世界的に主要各国で台頭してきており、学术界、産業界、政府から注目されている^{[1][2]}。

サービス・サイエンスとは、サービスをサイエンスの対象ととらえ、科学的な分析手法、効率的なマネジメント手法、生産性を最大限に高めるための工学的な生産方法を提供し、サービスの特性に起因する諸問題を解決し、生産効率を上げようという新たな学問領域である。

1 電気・ガス・熱供給・水道業
2 情報通信業
3 運輸業、郵便業
4 卸売業、小売業
5 金融業、保険業
6 不動産業、物品賃貸業
7 学術研究、専門・技術サービス業
8 宿泊業、飲食サービス業
9 生活関連サービス業、娯楽業
10 教育、学習支援業
11 医療、福祉
12 複合サービス事業
13 サービス業(他に分類されないもの)

表1. 日本標準産業分類に基づくサービス産業

2. サービス利用者の異質性の研究

表1のようにサービス分野は広いが、サービスに共通な特性には、「無形性」、「同時性」、「異質性」などがある。

(1) 無形性：無形性とは、提供されるものが手に触れることのできない、提供者の活動の結果としての効果・効能であるという性質を指す。

これは、提供されるものの経済価値が製品よりも曖昧であり、価格設定や管理が難しい等の問題を生じさせる。

(2) 同時性：同時性とは、生産と消費が双方向的に同時に起こるという性質を指す。たとえば、教師が教えると同時に学生が学習する、医者が診察をするとほぼ同時に患者は診断・治療を受けるというようなことである。

これは、製品を工場で作り、その後、利用者に届けるというモデルと異なり、生産活動の中に利用者が同時に居合わせるモデルであり、利用者と提供者の関与が大きいことを意味する。また、このことにより、利用者が得られるサービスの品質を事前にチェックできないという問題が生じる。

(3) 異質性：異質性とは、同じサービスを購入しようとしても、提供する人、提供される場所、利用者のパーソナリティ、置かれている環境、心理状態により、サービスの効果や利用者の受け止め方が異なるという性質を指す。

21世紀に入り、サービス利用者の生活スタイル、価値観、経済環境の多様化から、利用者の特性を詳細に分析し、それぞれのニーズに適したサービスを提供・開発することがさらに重要となってきている。

そこで、椿研究室ではサービス・サイエンスにおいて重要なサービス利用者の異質性に関して、様々な視点から分析・研究を行っている。分析手

法としては、因子分析、クラスタリング、構造方程式モデリング、グラフィカルモデリング、treeモデルのような多変量解析や、ベイジアンネットワーク等を用い、定量的に研究を行っている。

3. 顧客タイプ別サービス効果分析システム開発

まず、利用者のタイプ別のサービス効果を分析できるシステムを開発している。顧客のニーズや好み、行動特性をきめ細かく分析し、タイプ分けし、さらに目的変数（例えば、満足度）に対する説明変数の因果構造のモデリングを行うことで、顧客タイプ別のサービス提供方法を示唆できる分析システムとなっている。本システムを使用することによって、顧客への対応がきめ細くなり、サービスの質や生産性の向上が期待できる。さらに、潜在的なニーズに対する新しいサービスの提案も可能となる。

サービス利用者の異質性に関しては、すでに図書館サービス^[3]や化粧品サービスに関する分析を行っている。化粧品サービスにおいては、購入前後の消費者の動向、つまり目指す自分・目的・期待、使用頻度やメーク場所、使用時の気持ちや実感等について、顧客の視点でかなり詳細な分析を行っている。

また、顧客タイプ別サービス効果の分析システムは、情報通信業、小売、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス等広くサービス業に应用できるので、今後は様々な業種の企業との共同検証を積極的に進めていきたい。卒業生の皆さんで、ご興味をお持ちの方がおりましたら、ご連絡下さい。

また、本研究の教育バージョンである「学生タイプ別教育・学習効果分析システム」は、先行して検証が進んでいる。本システムで分析することにより、各タイプの学生の成績向上のための教育・学習効果の傾向の分析、教師の授業改善の各タイプの学生の満足度と与える影響の分析、個々の学生への指導のための分析を行うことができる^{[4][5]}。

また、現在は、そのシステムを応用して、NHK 仙台局・浜田専任エンジニアとの共同研究で、被災地児童・生徒達の夢や希望、日常の行動

などに関するアンケート調査から、児童・生徒のための復興へ向けたコンテンツや媒体などについて分析し始めている。

さらに、サービスに関する異質性に関しては、地域ごとのサービスに対するニーズの違い（地域差）について分析を行っている。医療サービス、カフェ等における重視点の違いを分析している。

4. サービス分野での活躍に必要な能力の研究

社会人基礎力やコンピテンシー等、社会に出てから必要となる能力を早い段階から学生に意識させ、向上させることは重要である。製造業、建築業、土木業、応用化学等では、関連する各工学系学科で学んできた知識や技術を生かした就職先に就職しているケースが多い。しかし、サービス分野では情報系以外は、ある特定の学科からの卒業生が多く就職しているというわけではなく、文理両方の様々な学科からの卒業生が就職していることが分析の結果からわかっている。特にサービス産業では、付加価値を生む存在である人材の育成も課題となっている。椿研究室では、サービス分野での活躍に必要な能力を各業種別に学生に提示して能力向上を支援する業種別生涯キャリア支援システムを開発している。

5. 教育・学習に関する異質性の分析

表1に示したように、教育もサービス・サイエンスの研究対象となっている。椿研究室では、教育・学習における異質性にも非常に力を入れて研究を行っている^{[6][7][8]}。例えば、ある科目受講の大学生93人に対して学習アンケート調査を行い、学習スタイルの違いがテスト成績にどのように影響を及ぼすかを詳細に分析している。アンケートの回答は900字程度の自由記述式とし、チャンス発見のためのキーグラフ（テキストマイニングの一種）により学生の潜在的な意識にも注目して解析を行っている。

また、小・中学生の問題解決能力教育として統計的手法を活用するための学習支援システムの研究も行っている。統計的問題解決能力は、将来社

タイプ別教育・学習効果分析システムの開発に関する研究

2) 因子分析による母集団構造の把握

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
進学率	-0.0467	0.3010	0.1020	0.1480
入部	0.4300	0.1670	0.0543	-0.2260
学力	-0.0809	0.0938	0.0515	0.2410
モットー	0.2270	0.2620	0.1270	0.0705
私立	-0.0023	0.0977	0.1700	-0.0850
距離	-0.0427	0.1520	0.1080	0.0874
熱め	-0.0444	0.2040	0.0882	-0.0158
行事頑	-0.0350	-0.1620	0.8300	-0.1450
仲間頑	0.0134	-0.1260	0.7640	-0.0501
文化祭	-0.0848	0.2190	0.4650	-0.0018
体育祭	-0.0083	0.1770	0.4530	-0.0097
修学旅行	-0.0230	0.1180	0.3950	0.0205
参加意欲	-0.0503	-0.1340	0.7540	0.0582
行事成果	-0.0091	-0.1630	0.6970	0.0551
学習意欲	-0.0852	0.4530	-0.0411	-0.0522
学習時間	-0.0210	-0.2410	0.1100	0.4580
文武両立	0.7070	0.3110	-0.0185	0.4890
割合	0.9020	0.1890	0.1030	0.3730
充実感	0.9480	0.1430	0.0285	0.3240
部活意欲	0.9600	-0.0498	-0.0256	0.2630
部活目標	0.7860	-0.0088	-0.0155	0.0594
評価	0.7660	-0.0363	0.0009	0.0322
テスト回数	-0.0656	0.0017	-0.0851	0.5050
大学受験	-0.0008	0.7600	0.0019	0.3560
工夫	-0.0309	0.7950	0.1120	0.1790
熱意	0.0070	0.7380	0.0240	-0.0156
アフターケア	-0.0270	0.6380	0.7130	-0.0018
雰囲気	-0.0651	0.6910	-0.0328	-0.0197
授業内容	-0.0909	-0.0331	0.7050	0.0018
授業満足	-0.0258	0.7530	0.0741	0.1540
プログラム	0.0043	0.0899	-0.0641	0.0689
回収・返却	-0.0076	0.1120	-0.0897	0.6150
答え合わせ	0.0521	0.0930	-0.1390	0.2410
プリント	-0.0419	0.1240	0.1910	-0.2690
伸び	0.0607	0.0892	0.2210	-0.0318
			0.0126	0.2940
			0.0274	0.2190
			0.0281	0.0281
			0.0606	0.0789
			0.0419	0.3900

因子分析ボタンを押すと
因子分析シートに因子負
荷量が表示される

第3因子は、行事や仲間に関する
項目の因子負荷量が大い
⇒因子名:「行事・仲間」

第4因子は、学習時間、学習意欲、
ノート、授業頑張りなどの因子負
荷量が大い
⇒因子名:「学習取り組み」

第1因子は、部活に関連する項目
の因子負荷量が大い、特に0.4以
上の変数を見ると全てが部活関連
項目であった
⇒因子名:「部活動」

第2因子は授業関連、学校の施設
の項目の因子負荷量が大い
⇒因子名:「授業・学校」

図 因子分析(因子負荷量)

表 平均点と学習時間に関する分析結果

		学習時間						
		1	2	3	4	5	6	7
グループ	1	0.511	0.192	0.049	0.077	0.038	0.070	0.064
	2	0.446	0.219	0.080	0.085	0.026	0.051	0.083
	3	0.277	0.211	0.133	0.145	0.055	0.090	0.090
	4	0.208	0.280	0.112	0.149	0.067	0.108	0.075
		平均点						
		1	2	3	4	5	6	7
グループ	1	0.029	0.157	0.211	0.278	0.185	0.134	0.006
	2	0.008	0.124	0.224	0.285	0.239	0.116	0.005
	3	0.008	0.039	0.152	0.277	0.344	0.172	0.008
	4	0	0.011	0.108	0.317	0.369	0.194	0
グループ1		平均点						
		1	2	3	4	5	6	7
学習時間	1	0.050	0.237	0.294	0.231	0.131	0.050	0.006
	2	0	0.133	0.11	0.417	0.200	0.133	0
	3	0	0.067	0.133	0.333	0.333	0.133	0
	4	0.042	0.083	0.208	0.295	0.208	0.167	0
	5	0	0	0	0.250	0.33	0.417	0
	6	0	0	0.182	0.318	0.227	0.227	0.046
	7	0	0	0.050	0.150	0.300	0.500	0
グループ2		平均点						
		1	2	3	4	5	6	7
学習時間	1	0.017	0.214	0.278	0.244	0.186	0.061	0
	2	0	0.069	0.17	0.310	0.297	0.145	0
	3	0	0.038	0.208	0.302	0.321	0.132	0
	4	0	0.048	0.159	0.381	0.270	0.127	0.016
	5	0	0	0.118	0.471	0.176	0.235	0
	6	0	0.059	0.118	0.26	0.382	0.206	0.029
	7	0	0.036	0.236	0.309	0.182	0.218	0.018
グループ3		平均点						
		1	2	3	4	5	6	7
学習時間	1	0.014	0.056	0.254	0.282	0.296	0.085	0.014
	2	0	0.093	0.278	0.25	0.315	0.056	0
	3	0	0	0.029	0.382	0.382	0.206	0
	4	0	0.027	0	0.359	0.378	0.135	0
	5	0	0	0.071	0	0.429	0.500	0
	6	0	0	0.044	0.130	0.43	0.391	0
	7	0.044	0	0.130	0.174	0.304	0.304	0.044
グループ4		平均点						
		2	3	4	5	6		
学習時間	1	0.036	0.107	0.254	0.226	0.164		
	2	0.013	0.160	0.280	0.413	0.133		
	3	0	0.067	0.300	0.433	0.200		
	4	0	0.125	0.325	0.350	0.200		
	5	0	0.111	0.359	0.278	0.222		
	6	0	0.069	0.276	0.345	0.310		
	7	0	0	0.350	0.350	0.300		

表 個々の学生へのアドバイス用の表

	平均点	学習時間	授業頑張り	グループ
学生a	3	2	6	3
学生b	3	0	3	4

図1 学生タイプ別教育・学習効果分析

会で活躍するために必要となる能力のうちの一つとして、文科省が小・中学生のときから積み上げられることを新指導要領に盛り込んでいる。椿研究室では、学習支援システムの開発と共に、統計的問題解決の模範事例や指導例も作成している。大学の卒業生で、小・中学校の先生方、ご興味をお持ちの方がおりましたら、ご連絡下さい。

さらに、学習サイクル（Plan（自分の実力に適した計画）、Do（実行）、Check（学習方法の効果の確認）、Act（標準化、改良））のまわし方と成果との関係などの研究も行っている^{[9][10]}。



参考文献

- [1] 亀岡秋男監修（2007）：「サービス・サイエンス－新時代を拓くイノベーション経営を目指して－」，NTS.
- [2] 上林憲行（2007）：「サービス・サイエンス入門－ICT技術が牽引するビジネスイノベーション－」，オーム社.
- [3] 椿美智子・椎名宏樹・斉藤誠一（2008）：市立図書館利用の構造と潜在クラス，日本図書館情報学，Vol.54，No.2，pp.71-96.
- [4] 椿美智子・大宅太郎・徳富雄典（2013）：タイプ別教育・学習効果システムの提案，日本教育情報研究，Vol.28，No.3，pp.15-26.
- [5] 池本賢司・関秀明・椿美智子（2005）：高校教育の質的向上に対する要望と生徒側の特性との関係解析のためのアンケート調査設計とモデル構築，行動計量学，Vol.32，No.1，pp.1-19.
- [6] 椿美智子（2007）：『教育の質的向上のための品質システム工学的データ分析』（現代図書）〈2007年度日経品質管理文献賞受賞〉
- [7] 椿美智子・若林咲（2008）：SRMの提案と学習型タイプ別セグメンテーション，日本経営工学会誌，Vol.59，No.3，pp.269-281.
- [8] Tsubaki,M. and Kudo, M. (2010) : A Study on Proposal and Analysis of Models Measuring Educational Effects for Assurance of Education Quality and Improvement of Student Satisfaction, International Journal of Education and Information Technologies, Vol.5, pp.113-122
- [9] Tsubaki, M., Oya,T. and Kobayashi,T. (2012) : Analysis for the Design of Effective Learning Activities Using Learning-Type PDCA and CAPD Cycles on the Basis of Characteristics of Individual Students, International Journal of Knowledge and Learning, Vol.8, No.1-2, pp.150-165
- [10] 椿美智子・小林高広・久保田一樹（2010）：学習型PDCA及びCAPDサイクルを用いた学習過程テキスト情報の個人差を考慮した分析，教育情報研究，Vol. 25，No.4，pp.15-27.

UEC・NOW ③

平成24年度 就職委員会活動報告

就職委員会委員長 山森信生

1. 日常活動

就職委員会の最も大きな活動は、就職を希望する新卒学生に対する日常の指導ですが、最近の景気低迷による企業からの求人減少（特に大手製造業）により、平成24年度の新卒の就職は苦戦を強いられ、3月末でも2013/03卒了の未内定学生の就職相談が続いています。加えて就職にたいする「危機感」から2014/03卒了生の相談急増（既に180名超）で、就職支援担当者は極めて忙しい状況にあります。

昨夏あたりから「ソフトウェア業界からの求人」も僅かながら増える方向と思われましたが、大幅な改善にまでは至らず、またアベノミクス景気も根の浅さが懸念され、2014/03卒了生の就職も決して樂觀できないと考えています。

就職支援の方向としては、大手企業もさることながら人材を求める優良中堅企業へ学生を送るため、企業へ電気通信大学および学生をPRし、学生へは中堅の企業の良い点を認識させ企業と学生の接触の機会を広げるよう継続的に活動しています。

2. 「IT業界の就職セミナー」 & 「IT業界就職相談会」開催



日時：平成24年5月16日（水）
「IT業界の就職セミナー」10:00～11:30
80周年記念会館 3F フォーラム
参加学生数 19名 講師：熊谷功吉氏
「IT業界就職相談会」13:00～17:00
大学会館 4F 多目的ホール
参加企業 36社 参加学生数 69名
平均訪問学生数 6.1名 / 社

「就職相談会」の開始前に「就職セミナー」を行い参加学生に関連業界の環境や状況について説明し学生の参考にしてもらいました。

3. 「夏季就職相談会」開催



日時：平成24年 7月18日（水）13:00～17:00
大学会館 4F 多目的ホール
参加企業 35社 参加学生数 86名
平均訪問学生数 8.3名 / 社

「電通大の学生を採用したい」との優良中堅企業中心のこのイベントでは、この時期から本格的に採用を推進する企業と、これまでに内定を受けられなかった学生との貴重な出会いの場を提供することが出来たと考えています。

4. 「マスコミセミナー」開催



日時：平成24年10月22日（月）・26日（金）
16:15～17:45
80周年記念会館 3F フォーラム
2日間延参加学生数 24名
講師：浅井正義氏

5.「企業研究展示会2012」開催 西地区体育館



日時：平成24年12月1日（土）13:00～17:00

参加企業36社 参加学生数403名

平均訪問学生数43.2名/社

出展企業36社がブースごとに、製品を置いたりパネルやパソコンディスプレイを使ったりして企業をPRし学生と面談を行いました。就職活動への取り組みが真剣で、説明も良く聞き質問も活発であったとアンケートにもあり、これからの就職戦線の厳しさを予感させられる光景だったように思われます。

アンケート回答34社の大多数の企業から来年も参加したいとの意向が表明されています。

6.「企業研究2013」誌

平成24年12月17日発行



就職を目指す学生の「就職先検索」のベースとなる「企業研究2013」誌2500部を発行し、就職を予定する学生へ配布し、保護者および掲載企業131社へ郵送しました。

7.「分野別就職相談会」開催

（OBによる就職アドバイス）

日時：平成24年11月2日（金）18:00～19:50

延参加学生数354名

相談会は、4分野（ソフトウェア開発関連、ハードウェア開発関連、メディア関連、サービス全般）を



45分ずつの2クールに分けて行いました。

8.「企業別就職相談会」および「交流会」開催

日時：平成25年1月24日（木）・25日（金）

「企業別就職相談会」13:00～17:00

①大会館 4F 多目的ホール

②80周年記念会館 3F フォーラム

参加企業数：24日 60社

25日 59社

計119社

参加学生数：24日 324名

25日 362名

計686名

今年は会場を2箇所として相談会を行いました。依然として厳しい就職戦線を反映し、多くの学生の参加がありました。企業のアンケートには、今年は特に事前に企業研究をしており熱心に質問をする学生が多かったとありました。

「交流会」ハルモニア 17:30～19:00

交流会では、お忙しいところ安藤副学長にご出席いただき、企業の皆様への挨拶と意見交換をしていただきました。

「企業別就職相談会」の宣伝と応援に駆けつけていただいた就職委員、理事および事務局の方々に御礼申し上げます。

9. 平成25年度の活動について

今年度の反省や学科・専攻組織の改組に伴う他就職支援事業との連携調整を考慮した上で、就職相談員の増強も取り入れつつ、基本的には今年度と同様の事業を計画しております。

加えて、昨今の就職環境を考え就職活動に少しでも有利な資格を取得させるべく「情報処理技術者資格取得セミナー」を実施すべく準備を整えております。



COLLINSと 共に生きた 我が人生 ②② (最終回)

“電気で飛ぶ
夢の旅客機787”

大久保忠昭 (昭和22年 技専)
e-mail: tad-okubo@mua.biglobe.ne.jp

前号でお知らせした通り、約10年間連載させて頂いた、小生のコリンズの仕事の思い出話も今回で最終回を迎えました。

約50年間携わってきた小生のコリンズとの思い出の話なので、お話ししたいことは、まだまだありますが、今回で出来るだけまとめて、次回機会が有った時に、お話を続けさせて頂こうと思います。

今年は、年の初めからボーイング787型機の相次ぐトラブルの問題が飛び込んできて、世界的にB787の運航停止というショッキングな出来事が起きました。皆様ご承知の通り、B787はボーイングが従来のB757、B767、B777等の後継機

として、全く新しい思想と技術を駆使して開発した〈夢の飛行機〉、次世代の中型ジェット旅客機と銘打って世に送り出した機体です。

特記すべきは、B787は準国産機ともいわれ、機体の約35%の部材に日本のメーカー約60社が関与しているとのことです。そして、日本の各航空会社も将来のフリートの中心とする事を決めており、既に多数の787の発注が行われております。しかし、開発当初から、トラブルが相次いだ為に、運航停止命令が出されました。この解決が長引くとボーイングは勿論、各航空会社にとって大きなダメージになる可能性がある所以心配です。

前号でお知らせした通り、B767の導入で航空業界もいよいよデジタル時代に突入し、その



JALの787



ANAの787

後、日本の各航空会社に、747-200、747-300、747-400、MD-11、737-300、737-400、777-200、777-300、767-200ER、767-300ERと次々と新しい機体が導入されていきます。これらの機体には、全てデジタル機器が搭載されております。コリンズのタイプナンバーでいえばMD-11の頃までは700シリーズで、その後は900シリーズです。これらの機材は更に性能の向上、小型化などが行われております。そして、787の為に2000シリーズが新しく開発されました。今回は、これらの700/900シリーズの機器のお話を、一寸横に置いて、今話題のB787のお話をしたいと思います。

B787とはどんな航空機なのか？一言でいうと、“電気で飛ぶ旅客機”と言えると思います。

従来の飛行機は、いわゆるニューマチック方式と言われ、エンジンから抽出した高温、高圧のブリードエアーをエンジンのスターターやエンジン・リバーサーや空調設備にまで幅広く使っていましたが、B787ではエンジンからの抽気による効率の低下を避け、その分、電気の使用比率を大きくしました。その結果、現在、ブリードエアーを使っているのは防除水くらいで、この電力化がエンジン性能をフルに発揮する鍵になっています。機内での使用電力が増加すれば、発電機的能力を向上させる必要がありますが、B747では240KVAだった能力は、B787では1,000KVAま

で高められました。

先ず、機体の構造材を見てみると、従来の航空機は主にアルミ合金、いわゆる金属が主に使われていますが、787の機体と翼は、全体の50%が炭素繊維複合材料〈CFRP〉を使用しております。複合材料は標準的な金属よりも軽量で耐久性に優れており、直接的なメリットは、機体をいくつかの一体構造の胴部で構成して、製造効率の向上、燃費効率の向上で燃料消費量を20%削減し、また、長期的な整備時間の削減が行われるということです。787で使われている複合材料は樹脂を浸透させた炭素繊維〈カーボンファイバー〉のシートを重ね合わせたうえで、高温高压で焼き固めたものです。

エンジンについても、787のエンジンは、技術の進歩によって効率的になり、現在使われているエンジンよりも、2世代先まで進歩していると言われています。離着陸の時の騒音も非常に静かになり、787の騒音は同等の航空機に比べて、約60%削減されているとのこと。

次に、電化によって、エンジン効率を向上させております。従来の旅客機には油圧、電気、高压空気などさまざまなシステムがあります。例えば、油圧は舵、ランディングギア、ブレーキなどを動かす為に使われ、電気は飛行機を飛ばすためのコンピュータや照明、或いはギャレーのオープンやレンジ、客室用のエンターテインメントシステ



JALのビジネスクラス

ムに使われています。このようなシステムの構成はこれまでの大型旅客機ではどれも同じですが、B787では電気システムの役割を大幅に増やして、ニューマティックシステムを殆ど廃止してしまいました。例えば、防水装置は電気ヒーターに、キャビンの与圧には専用の電動コンプレッサーを装備し、また、ランディングギアのブレーキも電気が使われております。

その他、客室を覗いてみると、窓が従来の民間旅客機の中では最も大型で、少なくとも約30%大きくなっており、窓の下に付いているボタンで、透明から遮光まで5段階明るさを調整できます。また、新しいLED照明が搭載されており、長いフライトでは、夜明けから夕暮れまで徐々に変わる照明などで客室の雰囲気演出しております。

その他、客室内の気圧を、従来、高度8000フィートに設定されていたものを、6000フィートまで下げておりますので、頭痛、ドライアイが防止されて疲労が軽減され、機内の温度も高くなっております。また、787には、乱気流予測技術が採用されており、特殊なセンサーによって近づいてくる乱気流を感知して、事前に処理できるようになっており、乱気流による揺れの少ないフライトが可能になりました。

騒音についても、騒音の少ない空調設備、側壁と天井の振動絶縁、吸気口と送風機の新しい騒音抑制技術、エンジンの振動抑制、システム及び装置と航空機の振動絶縁など、機内環境の改善が十分に考慮されております。



ANAのビジネスクラス

シートについては一見、従来のものと同じように見えますが、よりよい居住性を目指しており、エグゼクティブクラスでは、座席の幅を777型機と比べて5cm大きくして約54cm、シートのピッチは153cm、リクライニング角は171度で、タッチパネル式モニターは15.4インチです。エコノミークラスでは、ドイツ製シートを採用し、シートピッチは79cmで、足元の空間を広くとったデザインで快適性を高めております。また、肘掛間の座席幅は、777型機と比べて、2cm拡大して約47cmにしております。なお、エコノミークラスにも全席に10.6インチのタッチパネル式パーソナルテレビモニターを搭載したほか、エグゼクティブクラスに備わっているユニバーサルPC電源、USBポート、RCAジャック等もエコノミークラスの座席に装備されております。

そして、コリンズが最も関与しているコックピット機材が最新鋭になり、最も重要な点は、IMAが大型旅客機として初めて集中コンピュータ制御アーキテクチャを実現したことです。これによって、操縦系と航法系のデータが、単一のコンピュータで一元管理出来ることになりました。

ディスプレイも大型化されて、制御のための人間とのインターフェースが改良されております。また、ヘッドアップガイダンスシステムが標準装備されております。

787は、集中コンピュータ方式のアビオニクスを採用した初めての大型旅客機で、この



コックピット



B787 Head-up Display

システムの核心は集中コンピュータシステム〈CCS: Common Core System〉で、Smiths（現GE Aviation）、ボーイング、HoneywellそしてRockwell Collinsなどが参加して開発されました。

従来は、コンピュータが別々であったため、操縦系表示〈PFD〉と航法系表示〈ND〉は別々のディスプレイに表示しなければなりませんでした。が、CCSによってPFDとNDのデータを同時に一つのディスプレイに表示することが出来るようになりました。このため、従来よりも大型のディスプレイを使用して、画面の半分にPFD、半分にNDのデータを表示することが可能になって、パイロットへの情報提供の柔軟性が大幅に向上しました。

787のディスプレイは、コックピットに使用されたものとしては最大のもので、12インチX9.1インチ〈対角線長15.1インチ〉が5台設置されています。4台は計器盤に設置されており、5台目は中央部のエンジンスロットル制御器の前方に設置されています。ヘッドアップガイダンスシステム〈HGS〉はパイロットの前方のやや外側に設置されており、特殊な投射機で飛行情報を表示して、パイロットは、外界を見ながら、視線を動かさないでデータを見ることが出来るなど、制御のための人間とのインターフェースが大幅に向上しております。

787に搭載された電子機器、通信機器などが、殆どコリンズの機器で固められており、ある意味でコリンズパッケージであり、SFEアイテムとして扱われております、従って、787の使用航空会

社は、全てコリンズの電子通信機器を搭載して運航していることになります。

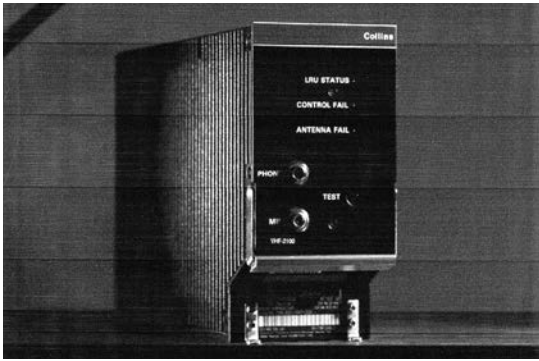
その内容は次の通りです。

1. Integrated Display System:
Five 15.1 inch diagonal LCD displays.
2. Dual LCD Head-up display 〈HUD〉.
3. Auto Throttles and Pitch, Roll, Yaw and controls will interfaces to the Aircraft's Fly-by-wire systems.
4. Integrated Surveillance System 〈ISS〉.
Integrated system including such as Weather detection, Traffic alert and Collision avoidance, Mode S Surveillance, and Terrain awareness and warning.
5. The Communication System:
a>VHF-2100 VDL Mode 2 capable with future growth to VDL 3 and VDL 4.
b>SAT-2100 Supports the International Civil Aviation Organization's safety service.
c>HFS-900D HF Radio.
d>Digital Flight Deck Audio System, Cockpit voice and Flight data recording system.

などです。

ここで、新しい通信関係機器の御紹介をしておきます。

先ず、VHF-2100は、コリンズの最も新しいVHF送受信機で、787型機で利用できる唯一の



VHF-2100

VHFラジオです。特徴としては、現在のボイス、データリンク、更に将来のCPDLC必要条件及びACARSサービスにミートしており、ソフトウェア及び環境対応は、最新のVHFラジオの要求事項、ソフトウェアDO-178B及び環境条件のDO-160Cにミートしております。また、周波数範囲を最高151.975MHzまで延長することによって、特別なオペレーションを可能にしております。MTBFは50,000時間以上を予測しており、オペレーションモードはARINC716と750にミートしております。

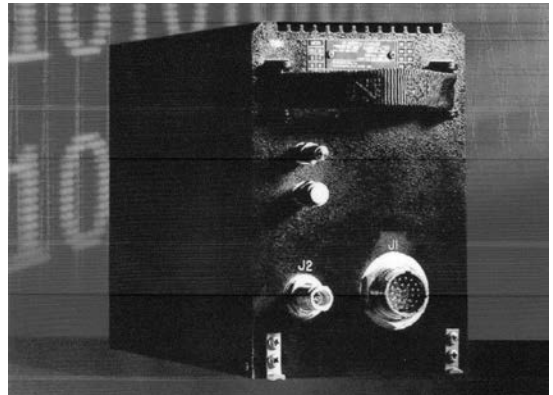
SAT-2100は衛星通信システムで、乗客とクルーの為にリアルタイム情報を可能にする、簡潔、軽量でかつ、経済的インマルサット衛星通信システムです。本システムは、多重ボイス、FAX、低速PCデータで動作する能力を持っております。また、SAT-2100は、そのHST-2100とHCM-2100コンパニオンを使用している最高二つまで同時のSwift64、又はSwift Broadbandを可能にします。

HFS-900Dは、広く使われているHFラジオです。システムはHF送受信機〈HF-900D〉とアンテナカップラー〈CPL920D〉で構成されており、1800bpsまでのデータを含むすべてのボイスを利用できるData Modesを持っております。

前に申し上げましたが、今回は現在世間を騒がせている787の問題に関してばかり、書いているうちに原稿の量が満杯になってしまいました。そのため、肝心のコリンズの700シリーズ、900



HFS-900D



CPL920D

シリーズのお話まで書けませんでした。残念ながら、次の機会に、是非、両シリーズの歴史と裏話をお話たいと思っております。

今回は、最終回ですので、一言申し上げます。コリンズという素晴らしい会社に巡り合って、約50年にわたって、コリンズの機器を日本の各航空会社に使って頂く仕事をしてきた小生の人生は、本当に幸せな人生であると思うと共に、誇りを持っております。後任者も優秀な技術者ですので、小生以上にコリンズの仕事を発展させてくれるものと信じております。

コリンズ万歳!! そして、目黒会の発展と皆様の益々のご健闘をお祈りして、筆を置きます。

祝
平成24年度
秋の叙勲

瑞宝小綬章

平野雅典氏

元特許庁審判部審判長

電気通信大学 電波工学科 昭和41年3月卒業

長年にわたる社会へのご貢献とご活躍に改めて深く敬意を表しますとともに、
心よりお慶びとお祝いを申し上げます。

目黒会

目黒会事務局スタッフ募集！

目黒会は電通大の在学生とOB・OGの皆さんへの各種サービスを提供しています。
ボランティアの心を持って勤務できるスタッフを若干名募集します。

職種：一般事務員（パソコン必須）、就職相談員

時給：1,000円 交通費：実費または定期代

資格：電通大卒業生で64歳から70歳までの方

勤務日数：週3～5日程度（ご相談に応じます）

勤務時間：9:00～17:00（ご相談に応じます）

勤務場所：電通大内創立80周年記念会館1階、目黒会事務局



連絡先 〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学内
一般社団法人 目黒会（電気通信大学同窓会）
事務局長 江尻貞明
TEL. 042-482-3812 FAX. 042-482-3845
Eメール info@megurokai.jp

電気通信大学藤沢分校物語…⑤

誕生から廃校まで

近藤 俊雄 (33B)



4.3 藤沢市会に於ける通信省説明の真意

前号まで2回にわたり藤沢市「官立無線電信講習所新設費起債」の議事録を紹介した。議事録には、通信省の説明に誤りがあり、また読者からの同様なご指摘により、その都度訂正したが単純なミスとは考えられないので本号で検証する。ミスの箇所とは「現有の通信協会の目黒講習所の設備を移管する」「一切を通信協会から移す」(注51)のくだりで、何故電信協会を通信協会と発言したのかの疑問がある。更に新たに指摘するのは「元の通信大臣田健次郎閣下がやっておられる東京目黒の無線講習所が」のくだりで(注52)、何故、田健次郎を若宮貞夫としなかったのかの2箇所である。尚、文中の氏名敬称は略させていただいた。

1942年(昭17)3月に行われた主な進捗経過を下表に示す。

3月26日の藤沢市会での通信省発言の疑問箇所は、他の資料とは全く整合性が無くむしろその違いの大きさは奇異にさえ感じられる。各資料が示すように電信協会を中心に進んでいた官立移管が突如3月26日だけ通信協会に変わり、3月28日には再び電信協会に戻るのである。これは何故か？

結論から云うと「通信協会」を「電信協会」に、「元の通信大臣田健次郎閣下」を「元の通信次官若宮貞夫電信協会会長」に訂正するのが妥当であろう。

1) 第1の疑問：前号で説明の通り「通信協会」は「電信協会」が正しい。

1942年(昭17)3月の官立移管のための主な進捗経過

年月日	主 題	関 係 部 署	会報No、資料(出典)
3月19日	講習所設立に関する件	通信大臣→若宮電信協会会長	vol. 23-2、目黒無線同窓会誌
無線通信士養成事業の経営を、昭和17年度より実施するので貴会講習所設備の移管をお願いしたい。			
3月23日	通信大臣講習所視察	通信省、講習所	電信協会50年史
講習所発展の経過、教育方針、現況の概要説明、校舎の案内、無線電信実験室の設備、通信術練習及び授業の実況等の現場説明を受けた。生徒全員に対し訓示した。			
3月24日	校舎等借入の依頼	通信省電務局長→藤沢市長	vol. 23-2、官立新営関係書類
無線通信士養成事業の実施に当たり校舎、寄宿舎は借入に依るとの方針で、昭和17年度予算が成立した。政府は、藤沢市に校舎等新営の依頼をして、政府に貸与方をお願いをした。			
3月26日	官立無線講習所新設の起債	藤沢市会	Vol. 24-1、藤沢市會々議録
通信省の説明①教育その他一切を通信協会から本省に移す。②若宮会長については一切触れてない。			
3月28日	設備寄付の決議	電信協会臨時総会	Vol. 23-2、電信協会50年史
電信協会はこの目的のために政府が使用する事は本懐とする所で設備一切を寄付する事を決議した。			
同上	感謝状の授与	通信大臣→若宮会長及び両理事	Vol. 25-1、電信協会50年史
無線通信士の養成事業に対する功績洵に大なり。社団法人電信協会管理無線講習所を政府へ移譲せられるに際して、多年の功労に対し深甚なる感謝の意を表す。			
4月1日	官立無線講習業務開始	中村所長事務取扱い	電気通信大学60年史

2) 第2の疑問：疑問点の「やっておられる」は、この場合、通常は「経営している」という意味であろう。田（略歴は後述）は多方面にわたり立派な功績を残しているが、講習所の功労者の観点に限ると田は1930年（昭5）に死去しており、1918年（大7）から1942年（昭17）の移管まで経営をしていた貞夫が最大の功労者である事は多くの資料で明白である。

「若宮貞夫先生の追憶」（注53）の中で「大東亜戦争の勃発により、俄に無線電信講習所の官立移管機運が高まり昭和17年1月に至り電信協会の若宮会長の内諾を得て官立無線電信講習所の経費が追加予算に計上され閣議決定された」と宮本吉夫氏は述べている。その経過を十分に承知している筈の担当の、隅野無線課長、事務官が計3度も通信協会と発言した事は単なるミスとは考えられない。又、議会書記のミスとも考え難い。

それではどのような理由があったのだろうか？ 私はその謎を次のように推定する。その疑問を解く鍵は電信協会会員総会の開催日、即ち「講習所設備一切の寄付」の決議が行われる3月28日にある。即ち、26日に講習所の財産を説明する藤沢市会では、「寄付の決議」は2日後になるため、「通信省に電信協会から財産が寄付された」との公表は出来ないとし、やむなく通信省に深い「通信協会」、「田男爵」の名を使つての苦しい説明にせざるを得なかったのではないかと私には、今、確たる資料がないので断定は出来ないが、恐らく「寄付未決の対処策」であったと推定する。

4月1日開所に向けての準備段階の時間の不足が最大の原因であり、更に後年、藤沢市会々議事録が、一般公開される事も想定外であったので、このような説明を考えたと思われる。

ところで、総会が28日に設定された経過は不明である。尚、電通大60年史には財産寄付問題に関して興味深い事が語られている。「官立に移管する時、財産をどうするか問題になった事がある。当然電信協会は解散する手筈になっていたが、当時の隅野無線課長からか、それとも他の誰かが若宮会長に話されたのか不明であるが、一説によると無線同窓会を社団法人に改組して協会所有の

無線講習所の土地並びに建物一切を継承させ、その土地と建物を通信省が借り受け、賃借料を無線同窓会に支払い、その金で生徒の寄宿舎や食堂などを経営させてはどうかという事であったが、この案は残念と云うべきか実現しなかった。当時の金額で約160万円であったが、若宮会長は何もかも無償かつ無条件で国に寄付したいとの事で承知されなかった。」

4.4 若宮正音・貞夫と田健次郎

3人の親密度の深さを想像させる略歴を示す。

若宮正音：1854（安元）－1924（大13）

現兵庫県豊岡市に生まれる。

田健次郎：1855（安2）－1930（昭5）

現兵庫県丹波市に生まれる。

若宮貞夫：1875（明8）－1946（昭21）

現兵庫県豊岡市に生まれる。

* 若宮正音：1886（明19）通信省書記官、1888（明21）通信大臣秘書官、1890（同23）工務局長兼秘書官、電話創業、1891（同24）初代電務局長、電気試験所創立、1893（同26）電信協会会長、農商務省商工局長、1896（同29）健康を理由に退官。1918（大7）社団法人電信協会会長（注56）

* 田健次郎：1890（明23）通信省書記官、1897（同30）電務局長、1898（同31）通信次官兼鉄道局長、1901（同34）衆議院議員（政友会）、1903～06（同36～39）通信次官、1906（同39）貴族院議員、1907（明40）男爵、1916（大5）通信大臣、その後司法大臣、農商務大臣、台湾総督、枢密顧問官等を歴任。

参議院議員田英夫 {1923（大12）～2009（平21）} は孫。（注57）

* 若宮貞夫：1899（明32）通信省入省、1922（大11）通信次官、1924（大13）第2代社団法人電信協会会長、衆議院議員、1931（昭6）陸軍政務次官、1934（同9）政友会幹事長。元高知県知事橋本大二郎 {1947（昭22）～} は外孫。（注58）

① 3人は同県人で、共に通信省高級官僚。

② 田健次郎、若宮貞夫は衆議院議員、政友会。

- ③ 通信大臣田男爵社団法人電信協会設立を認可。
- ④ 田男爵は若宮正音電信協会会長亡き後の会長を若宮貞夫に継ぐように指示。(4.7 参照)

4.5 講習所業務の引継ぎ (注54)

待望の官立無線電信講習所はいよいよ4月1日から新しく発足する事となった。この朝(3月28日)事務引継ぎの為、電信協会側から若宮会長及杉、宮崎両理事、通信省側から中村所長事務取扱、隅野電務局無線課長等出席、先ず官立設置の祝福を交換した後、事務引継ぎとなった。引継ぎは物件や書類だけではない、生きた人間の身柄が主体であるところに学校の引継ぎらしいところがある。偶々学期期である為大多数の生徒は巣立った後でもあり引継ぎ学生数としては736名であったが、別に新入学生として選定済みの者を加えると引継ぎ合計1,930名の多数で専属教員数は合計60名であった。全ての引継ぎが終わると中村所長は正門に至り、寺島大臣が揮毫せられた墨痕新しき「官立無線電信講習所」の表札を掲げた。

4.6 施設一切の寄付願の提出と感謝状 (注55)

3月28日臨時総会終了後、午後5時若宮会長は杉、宮崎両理事同伴、寺島通信大臣を官邸に訪ねて、臨時総会の決議に依る無線電信講習所施設一切の寄付願を提出した。官邸では寺島大臣以下列席し、之を受領せられ、丁重なる挨拶があり、尚大臣からは会長及び両理事に対し、次の感謝状と共に心を込められた記念品を贈与せられた。

感謝状 (その1)

君は大正7年9月25日社団法人電信協会理事に就任すると共に無線通信士養成機関設立の事に従い画策宜しきを得て同会管理無線電信講習所の創立を見たり。次いで大正13年5月4日同会会長に就任し、爾來二十有四年の長きに亘り終始一貫奉仕の精神を以て国家に須要(筆者注：どうしても必要なこと)なる無線通信士の養成事業に盡瘁(筆者注：ジンスイ：自分の事はかまわず全力を尽くす事)し、其の間幾多の困難に遭遇するも

克く之を突破して鋭意施設の整備拡充と所風の刷新向上とに努めたり、又時代の要求を察知して政府の方針に即応し常に施策の適切な実施を誤らず、特に支那事変勃発以来無線通信士の需給急激に逼迫を告げるや寝食を忘れて養成人員の増加充実の措置に奔走し為に克く斯界の養成に應え得たるのみならず、今次大東亜戦争に於ける陸、海、空各般の重要な無線通信の遂行上遺憾なきを得たるは、偏に君が献身的努力の賜物にして其の功績洵に大なり。今般社団法人電信協会管理無線電信講習所を政府へ移譲せられるに際し、君が多年の功労に対し茲に深甚なる感謝を表す。

昭和17年3月28日

通信大臣從三位勲一等 寺島 健

社団法人電信協会

会長 若宮貞夫殿

(感謝状その2以降省略)

4.7 電信協会創立五十周年祝賀会

官立移管後の約1年を経た1943年(昭18)4月17日夜、帝国ホテルに於いて電信協会創立50周年の祝賀会が開催された。電信協会50年史には次のように記載されている。

「世は決戦体制下、一億緊張の極に達し、昨年4月に敵機の帝都来襲を見てから丁度満一年に当たるので、予てよりアメリカの与論は一年前失敗に終わった日本本土空襲を、本年4月一周年を期して再挙するぞという宣伝も行われて居た。帝都は道行く男女何れも巻脚絆、もんぺ姿で、心の緩みを互いに警戒し合っている時であった。それ故、時局の様相に鑑み、若宮会長は極めて質素にしかも最も有意義に之を挙行了。来賓として荒木貞夫大将、通信省側からは寺島通信大臣、中村電務局長、隅野無線課長その他、又その他陸海軍、船舶、航空、電気通信事業或いは新聞報道関係、各界の名士有力者多数。更に電信協会側からは若宮会長、宮崎、杉の両部長、商議員、古老新進の諸会員等、約200名がテーブルに集まった。」

若宮会長の挨拶

「本日は御多忙中特にお繰り合せご来臨を賜りまして、主催者として洵に光栄の至り、衷心より厚く御礼申し上げます。電信協会は明治25年末の創立から昨年を以って満50年に達したのでありますから、昨年末にこの記念会を開催するのが順当であり、左様致したいと思って居りましたが、色々の事情もあり、その上協会の結末をつけるべき諸般の事項の処理途中でありましたので、結局今日に持ち越したのであります。

50年と申しますと、俗に云う人の一生に相当する長い期間であり、この間協会は終始一貫、我国電氣通信事業の為に奉公させて頂いたのでありますが、時勢の推移に伴って、協会の事業にも変化があり、又会運にも自然消長があったのであります。今日は協会50年記念会の事でありまして、ご迷惑は万々拝察いたしますが、この際少しく過去を回顧させて頂きたいと存じます。

電信協会は時の電氣通信界の権威者であった浅野、大井、五十嵐の三博士、その他この分野の中堅幹部の方々並びに当時電務局長を務めて居りました亡父若宮正音等が主唱して、明治25年12月3日に結成されたものでありまして、その事跡を顧みますと、大体、創立以来大正6年に至る25年間の前期と、大正7年より現在に至る25年間の後期とに区分する事が出来、前期は専ら電氣通信一般に関する技術並びに行政を調査研究して、事業の改良進歩に貢献いたし、後期は主として無線通信士の養成を担当し、我国私設無線に国家の要求する有資格者を提供する事によって国家に貢献するに努めて来たのであります。その前半の業績は単に科学の基礎的研究、又は行政の事務的改善と云う事の一方にのみ偏しないで、この両者を調和結合して電氣通信事業の改良進歩を図ると云う点、即ち科学と運営の結合実施と云う点に特異性を帯びて居り、これに依ってこの分野に貢献した所が、少なからずあります。これはあながち手前味噌だけではありません。当時、遺憾ながら我国の文化程度はまだ低いと思われて居た時代に、外人が電信協会なるものの存在を知って、日本には電氣通信の為に斯様な団体があり、機関雑誌であると驚嘆したと云う話が伝わって居るのを見

ても、凡そ推察し得る事と存じます。素よりそこには若干の成果を挙げるに就きましては先輩諸公が精神的に或いは又物質的に大なる犠牲を払い続けられた事は申す迄もない次第であります。しかる所、時勢の推移に伴い、会運やや衰退の色を呈して来まして、先輩諸公は夫々私財を寄付して、些かの基金を造り、持久方の途を講ずるのも止むを得ないと云う時代に出会ったのであります。丁度このような時、前欧州大戦の影響を受けて、我国船舶は世界的な活躍の時代となりましたが、海外雄飛には無線電信設備の必要があり、その機械は辛うじて製作し得ても、これを操縦する通信士を獲る途がなく、官も民もこれには頗る悩まれた結果、期せずして官民双方から協会に対して「通信士養成を担当せよ」との要望がもたらされました。協会では「元来この種の事業は国営の性質を帯びるもので、民間団体のよくし得る所でない」との考えで躊躇したのであります。時の通相、田男爵の強いお勧めに従い、「国家事務の代行機関たる心得」を以って協会を担当する事となりまして、ここに協会後半生の成果が生まれて来たのであります。

そこで協会は、大正6年から準備にかかり、翌7年先ず組織を改めて社団法人として（筆者注：承認は田通信大臣）、海運界造船界の有志から設立費用の寄贈を受けて「無線電信講習所」を設立致しました。何分民間団体として初めての試みで、早やその創設の時から校舎、器具機械の設備、教育の整備等幾多の困難に出会ったのでありますが、関係諸方面の熱烈なる支援の下に幸いに内容を充実する事が出来、政府に於かれても教育の充実に伴い卒業生に対し無試験で国家免状を授与すると云う特権を与えられ、又最近に及んでは現官の官吏を講習所へ配属せしめて教授の任に当たらせると云う、国家の代行機関たる特異性を明らかにせらるる事となったのであります。

講習所の設備がやや整った以後も、決して坦々たる大路のみを歩んだのではなく、矢張り幾多の試練と苦難とはかわるがわる来往致しました。現にある時は経営甚だ困難に陥り、代行機関に対する政府の庇護の厚からざる事を恨み歎きながら頑張った時代もあり、又ある時は海運界不況の影響

を受け、卒業者の就職難に悩んだ時代もありました。この失業苦は最も悩みの大きなものでありましたが、さりながら経済界の盛衰は一時的な現象であり、皇国の前途を見渡すと無線通信は海にも、陸にも、空にも益々其の利用を増加すべきものであるとの確信の下に、協会は終始積極方針を堅持致しまして、昭和12年以来、引続き3回の拡張を致しました。特にその第3回目は広く海運界、航空界、陸上電気通信界、電気機器製作界から支援を得て一大拡張を断行いたし、是によって幸いにその後、俄に起きて来た需要激増に应じて、国法に依る絶対必要量だけは供給する事が出来たのであります。第一回拡張の直前、昭和11年の秋の頃と記憶致しますが、宮崎、杉兩理事から「新造船の状況に鑑みると、近く通信士の不足を生ずると云う予感がある。今からその対策を講じておく必要がある」と提唱され、先ず政府筋、民間筋の意向を聴いて見ると「今は質の問題であって量の問題ではない」と云われ、尚、退いて順を追って調査して見ると、兩理事の見通しが当たって居ると思われるので、直ちに第一次拡張計画を立て、同年末神戸へ参り船主協会幹部の方々へ再び若干の寄付をおねだりして、昭和12年に着工致しましたが、兩理事見通しの通り、その竣工前に早や校舎の不足を告げ、引続き第2次拡張をしたと云う事もありました。斯くして講習所開設以来25年間に相当多数の通信士を海、陸、空へ送り出し、殊に船舶無線の8～9割までは当講習所出身者で操縦されて居る実情であります。

以上の通り、講習所は幾多の難関を踏み越えて成長致しまして些かお国へ貢献し得たのであります。一昨年末から昨年へかけ政府当局から「講習所を政府に移管してくれぬか」との内談があり、協会役員に於いては「素々国営の性質であるものを政府の希望に依じて代行して来たもので、之を政府へ移管するのはその本質に立ち戻るわけで、欣然応諾すべき筋合いである」と云う事に意見が一致しまして、昨年3月総会の決議を経て4月から養成事業を移管して、(教員、職員、学生全部を引継ぎ)併せて講習所の設備一切を挙げて、之を政府へ寄付いたし目黒無電(原文のママ)はそのまま官立と相成ったのであります。

斯くして後半生の主要目的であった通信士養成事業を政府へ献納した協会は、それ以外に若干の目的事項を持っては居りますが、それらの事項に就いては、今日に於いては、他に相当発達した機関が存在して居ります。凡そ公益法人なるものは、自然人とは違い、存在して居るが故に目的を捻出すべき性質のものでなく、確たる公益目的があつて初めて存在すべき性質のものであると存じますので、既に長い間、主たる目的とした事業を喪失した以上は、一応解消するのが国法に精神に適うものであるとの見解で、先般の商議員会に於いて、来る5月2日を以て臨時総会を開き、協会解散の決議を求める事に致しました。されば、本日の記念会は協会が創立以来満50年に達し、その間些かお国へ貢献し得た事を記念すると同時に、その半面に於いて多年ご庇護を賜った皆様へ御礼申し上げ、且つはお暇乞いを申上げる事を趣旨と致しますものでありまして、茲に謹んで厚く御礼を申し上げます。

さて斯く申す私に父子2代にわたり50年の間深い関係を持ち続けましたこの協会を、存続すべきか、解消すべきかの重大な岐路に立ちました時、実に感慨無量のものがあつたのであります。亡父は諸先輩の推薦を受け創立の際から死去いたす迄会長の席をけがさせて頂きました。私も亦皆様のご推薦で亡父のあとを受け会長の席をけがさせて頂き、長く公益事業に携わらせて頂きました事を甚だ光榮に存じます。

亡父死去の際には先輩諸公の中で、なおご存命の方々もあらせられまして、私如きがその席を汚すべきではなく、固く辞退申上げたのであります。田男爵からお呼出しを受け「先輩諸氏何れも老令に達せられ、確かに有望ではあるが、同時に多難であるべき協会事業の前途を見届けると云う確信がない。この際比較的若い者にやらせて懸命に働かすべきである」と云う事に意見が一致した結果、お前に託されようと云うのだから謹んで引受けたらよからう」とお指図を受け、結局お引受け申上げたような次第で、爾来此の寄託に背かず先輩の偉業を完成したいと念願し続けました。杉、宮崎兩理事その他同僚諸氏もここに深い同情を寄せられて多年熱烈な援助を給わり、兎も角も結末

をつける事と相成りました。私共が、協会の先輩諸公がこの公益事業を経営するのに、名誉の上にも物資の上にも何等求める所なく、黙々として滅私奉公の実践をして我等に教を垂れられた事は私共の最も感銘深い点であります。精神上、物質上の犠牲を払いつつ、別に宣伝するでもなく、黙々として滅私奉公の実を示された事、即ち少しも口舌の上にのぼせないで滅私奉公を実践して我等に教を垂れられた事は、私共の最も感銘深い点であります。今夕は折角のご来臨にも関わりませず御容赦下さいまして、・・・」(以下省略)

今回は藤沢市に焦点を移し述べる。(以下次号)

訂正) 前号 vol.24-2 : P57, 右欄上から 22 行目 24 日を 19 日に訂正します。

注) 本稿の引用資料は最終稿に纏めて記載します。

注 51) 会報 vol.24-1, vol.24-2

注 52) 会報 vol.24-1

注 53) 若宮家と無線電信講習所

注 54) 55) 電信協会五十年史

注 56) 若宮正音: 通信事業史他

注 57) 田健次郎: リサーチ・ナビ

注 58) 若宮貞夫: ウィキペディア

小野塚勉様(26新制本科)のご紹介で、電通大の創始者若宮正音氏の弟正響氏の孫にあたる若宮保次郎、若宮正子兄妹と面識を得ることができました。若宮正子氏は「メロウ倶楽部 (<http://www.mellow-club.org>)」が運営する“実録・個人の昭和史”を記録、掲載している「メロウ伝承館」のスタッフです。本稿(藤沢分校物語)を始め目黒会会報誌の記事の一部が「メロウ伝承館」に転載されています。

第 63 回 調布祭ご寄付のお願い

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

諸先輩方のご支援とお力添えにより、昨年の第62回調布祭は延べ23,000人を超える方々のご来場を戴き盛況に開催されました。改めてここに御礼を申し上げます。

今年度の調布祭開催日は平成25年11月22日、23日、24日の3日間となっています。

今から実行委員一同が一丸となって準備を進めておりますので、是非とも足をお運びいただきたく、お待ち申し上げます。

なお、調布祭の運営費は学友会率の低迷により大変厳しいのが現状です。

そこで甚だ厚かましいお願いとは存じますが、ご寄付のご協力をよろしくお願い申し上げます。

ご寄付は一口5千円とさせて頂いております。金額の多少にかかわらずご厚志はありがたく受けさせていただきますので、同封の振込み通知書にてお近くの郵便局よりお振込みいただければ幸いです。

尚、ご寄付にご協力いただきました方のご芳名を調布祭のパンフレットに記載させていただき、合わせて調布祭のパンフレットを送付申し上げます。

どうぞ、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

第63回調布祭実行委員会 委員長

粕谷 桃伽

スマートテクノロジーフォーラム (STF) 2013

(旧 目黒会移動体通信研究会)

「社会の再活性化に向けたICTの新たな展開」 講演会&見学会 開催予告

この度開催する「スマートテクノロジーフォーラム (STF) 2013」は、これまでの移動体通信研究会を引き継ぐ新たな催しです。

スマートフォンに代表される移動体通信は、過去20年ほどの間に目覚ましい発展をとげ、生活やビジネスに大きな影響を与えてきました。移動体通信研究会(前身は1967年に発足した海上通信研究会(当初3年間は懇談会))は、常に先進的な通信技術を扱ってきましたが、今後この分野は単にブロードバンド通信やデジタル放送にとどまらず、交通、エネルギー、農業、環境、教育、医療、福祉、等々あらゆる社会活動の高度化に関わってくるものと思われます。

そこで、これまでの実績を継承しつつ今後は、情報通信全般とその社会・産業応用における高度技術(スマートテクノロジー)を対象として、多分野の方々が参加し発展的な議論が行われるフォーラムを展開していきます。

講演会

日 時 **平成25年9月26日(木)** 13:30 ~ 17:30

場 所 **電気通信大学B-202** (予定)

講演会内容 (詳細は変更の可能性がありますが)

1. 日本の成長戦略をになうICT
2. 情報通信産業の次なる発展
3. 未来社会を作るICTイノベーション
4. 次世代メディアを牽引するスマートテレビ・4K/8Kテレビ

見学会

日 時 **平成25年9月27日(金)** 午後

最先端の映像メディア技術 (見学先交渉中)

参加申込等の詳細は、4月中旬以降に目黒会ホームページに掲載いたします。

<http://megurokai.jp/>

平成25年 新年交歓会ご報告



平成25年新年交歓会は1月23日夜、電気通信大学内大学会館3階、レストラン・ハルモニアで行なわれました。

大学からは梶谷学長を始めとし、理事4名、副学長3名を含む16名もの大学組織代表にご出席戴き、更に事務方からは2名の副理事、8名の課長、3名の課長補佐と総勢27名の教職員の方々にご出席戴きました。

一方、目黒会側は23名の現理事、8名のOBの計31名が出席し賑やかに行なわれました。

会は、山森専務理事の司会進行で進められ、安田会長からは、新年交歓会に先立って行なわれた大学との連携協力交流会で説明のあった「100周年記念事業」に目黒会として、全面的に

協力してゆくというご挨拶がありました。引き続き梶谷学長から、「UEC基金のチラシを目黒会報に同封したら、早速目黒会会員からの寄付が増加した」とのお話がありました。続けて福田理事から乾杯のご発声を戴き、宴が始まりました。

会場では、大学から参加して戴いた多くの方と目黒会の面々であちこちに会話の花が咲き、時を忘れて盛り上がりしました。

やがて午後8時となり、例年通り高島副会長の一本締めでお開きとなりました。

ここに、ご多用の中、ご参加戴きました皆様にご心より御礼申し上げます。来年もまたお会いしましょう。

目黒会事務局



投稿案内

薄謝進呈

CHOFU Networkでは 会員の皆様の投稿原稿を募集しています。

恩師や学友との交流、懐かしい思い出、会員の皆様にぜひ知らせたいニュースやご意見など、ふるってご応募ください。

*掲載原稿には薄謝をお送りいたします。

*ご投稿原稿は、写真を除き返却いたしませんので、予めご了承ください。

*掲載号については編集部にご一任ください。

次号締切／平成25年9月末日

投稿宛先

目黒会事務局

〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学内

TEL.042-482-3812 FAX.042-482-3845 info@megurokai.jp

members' voice

開戦前夜東京湾口の触雷事件顛末

菊池金雄（昭和14年11月特科）

この秘話は半世紀前、太平洋戦争開戦前夜の奇妙な事件であった。それは、日本の貨物船（船名失念）が昭和16年12月7日の深夜、東京湾の入り口で触雷したため、国際遭難電波である500キロサイクルでSOSを発信したことである。

誰も翌日に開戦することなど感知するはずもなく全く不思議なSOSであり、普通なら最寄り海岸局や付近船舶に救助のための情報交換通信が殺到するのであるが、なぜか後続情報がなく尻切れトンボになった。当時、私が乗っていた恵昭丸（大同海運貨物船5800総トン）は横須賀鎮守府所属徴用船で、南洋委任統治の島々にドラム缶入り航空ガソリンの輸送任務を終え横須賀軍港に向け帰航中であった。本船内でも一体日本海軍はどうなっているのか、と不信の声がでた。

翌8日朝、開戦のラジオニュースがあり、本船が横須賀軍港に入港しようとしたら、海軍の内火艇が航路を先導したことは、前夜のうちに機雷による防潜柵が敷設されたものと推測された。

思うに、このSOS電波は米国など外局の無線局でもキャッチされた可能性があり、機密保持上からも遺憾な事件ではなかったろうかと、鮮明に当時のことが想起される。

このことについては自分史「硝煙の海」のホームページ<http://www.geocities.jp/kaneoip/> 第一部の恵昭丸の章で触れているので、どこからか同SOSをキャッチした情報を期待していたが、いまだ何らの関連通報も得られないので、先般JCS（銚

子海岸局）と、JGC（横浜港務部無線局）の当事のOBの方に問い合わせたところ、JCSにはそのころ海軍の情報将校が派遣されており、この種の機密に属する無線情報はただちに封印されたためかこのSOSに関し耳にしたことが無いこと。またJGCのOBの方は、たまたま12月8日の朝、通信当直の引継ぎを受けたが本件のことは引継ぎ事項に含まれていなかったとのことであった。

もしこの事件に関し何か情報をお持ちの方がおられるなら是非下記宛で一報方お願いしたい。

※連絡先

〒983-0045

宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目9-12

電話・FAX：022-293-0324

この旨を目黒会報（電気通信大学同窓会機関誌）等で依頼中のところ、今般下記の情報を入手することができ、永年の懸案が落着いたことは感無量である。

触雷船の船名判明（平成25年1月19日）

情報提供者：五十嵐温彦氏（戦没船事績調査研究者）

出展：林幹司著「大東亜戦争 日本艦船戦時日誌」（源出：横須賀鎮守府SN戦時日誌）

横須賀鎮守府参謀長発～軍令部次長宛通信文

船名 共同丸（C油槽船 船主／鍵富正作）

当該船は昭和16年12月7日 2320 観音崎灯台162度 3.5裡に機械室右舷前部に触雷。右舷機が故障したが浸水は少量で人員に異常なし。

補足情報

この共同丸は昭和19年10月25日スルー海で私が乗り組んだ昭豊丸が米機に爆沈されたとき救出してくれた船で、意外な接点に驚愕するとともに、往時を彷彿させられる…とにかく共同丸に移乗…すぐ入浴、同時に衣類を水洗いして、私は無線局長室で休息させていただいた恩義が去来するばかりである。

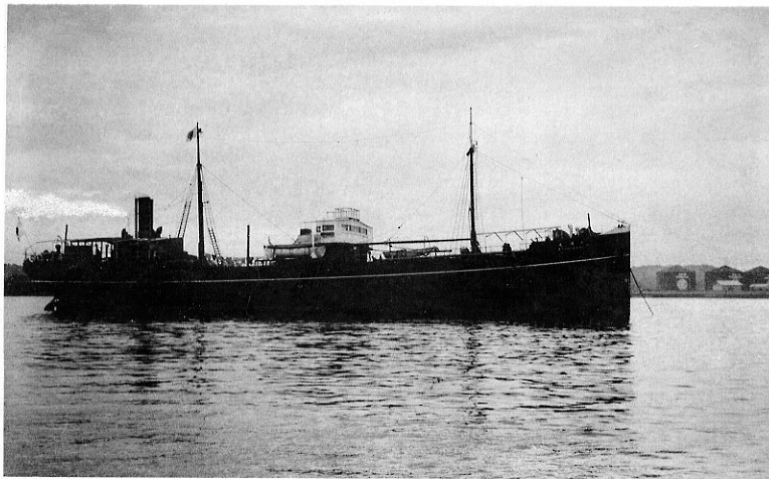
関連URL：

<http://www.ric.hi-ho.ne.jp/senbotusen/siryo-deta/kogatasenpyousen.htm>

共同丸はその後マニラ経由で昭和20年1月6日リンガエン湾において、アメリカ第38任務部隊搭載機の爆撃を受けて沈没し船員10名が死亡、とのことで、切に戦没者各位のご冥福を念ずる。

情報提供者への謝辞

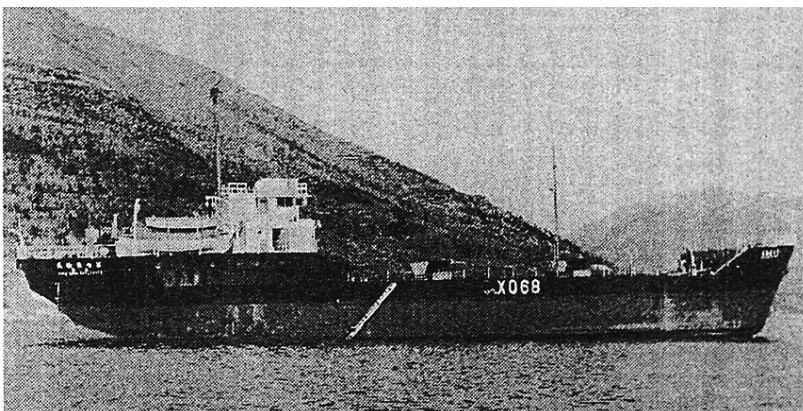
本事案については永年情報収集につとめ、船名不詳の船が機雷堰で推進器に絡網の件だけはキャッチしていたが、今回、具体的に船名までも把握できたことは長生き冥利で、五十嵐様に厚く御礼申し上げます。



(噸百二千一) 丸 同 共 船 送 油 所 賣 販 同 共 油 石 社 會 式 株

共同丸写真

出展：柏崎市立図書館所蔵 小竹コレクション



沈没寸前の昭豊丸と同型船の写真

出展：平和汽船（ex近海油槽船）第七東油丸（2ET）「五十年の歩み」より

members' voice

電波教育と共に歩いた50年

伊藤浩二郎（昭和23年卒 三期技術専攻科）

子供の頃から好奇心の強かった私は電波には特に興味があり、ラジオを作ったり壊したり近所ではラジオ少年として重宝がられていた、昭和12年前後の、いたずら盛りの悪がきであった。

昭和20年4月、戦争末期、旧制中学を卒業すると当時の通信省所管の官立中央無線電信講習所、熊本支所に入學した。軍の委託学生で、兵役免除もあり、海軍の武官から厳しい教練を受けたが、通信技術に関する電気磁気理論や通信理論の基礎教育も受けた。そして4カ月後、昭和20年8月敗戦を迎えた。学校は廃校かと思ったが、GHQの指示で平和裡の通信技術者の養成ということで9月から授業が再開された。

終戦直後の生活は厳しく、よれよれの服装で食うや食わず、焼け野が原で住宅難の生活であったが、若い研究所出身の教官や大学の先生達の協力で専門教育を受けることができた。そして2年間の教育を終えて卒業し、多くの者は官公庁などに就職したが、私はまだ勉強をしたかったので、技術専攻科に進んだ。

昭和22年9月、東京目黒の中央無線電信講習所の校舎で授業は始まったが、未だ東京は焼け跡の残骸などが残っていた。食糧難、通勤難に苦勞しながら、通信研究所や旧帝大の有名先生方の講義を受け、一年間、一生懸命勉強した。そしてその翌年、卒業して郷里の熊本に帰郷した。

その頃、無線電信講習所は通信省から文部省に管轄替えの構想があり、新製の国立電波高校として、仙台、詫間、熊本の三校が昭和24年5月に発足し、私は熊本電波高校の技術関連の教官として勤めることになった。昭和24年8月のことである。

私は元々先生という職業は好きではなく、研究所かメーカーなどで、通信機器を開発したり、作りたいと思っていたが、これも縁と覚悟を決めて奉職し

た。この電波高校は私の出身母校であり、専攻科進学まで薦めてくれた大変お世話になった学校である。

奉職して一週間目、無線工学（無線機器）、無線測定の授業をする羽目になったが、弟分に授業しているような気分で楽しかった。

一方、新製の電波高校は入学志願者も数十倍をこえ、就職先の求人も非常に多く、学校も有名になり順風満帆に見えた。しかし時代の日進月歩と社会のニーズにはこたえられず、特に真空管がシリコンのトランジスタに代わり、AM通信がFM通信に、短波がマイクロ波に、更にアナログ通信がデジタル通信になり、衛星通信が海上や航空通信に取って代われれば、電波高校の高校教育だけではとても対処できない。時間は足りない、専門科目は足りない、教官も足りない、まさにお手上げの状態になってきた。

ちょうどその頃、高等専門学校の新教育機構が産業界、財界、官界におこり、わが電波高校も遅れまじとばかり期成会をつくり昇格運動を各界に展開した。昭和38年から40年頃の話である。そして昭和46年4月高専昇格が決定され、高専設置基準に則り新校舎に移転した。

一方先生たちも高専の教授に受け入れられるように、留学したり、大学、研究所などに出向したりして論文を出し、研鑽を重ねた。お蔭で殆どの先生達が教授、助教授となり、情報工学科、電子制御工学科など新しい学科もでき、エレクトロニクス関連の高専として頑張って、現在にいたっている。

紙面の都合でかなり要約したが、私は昭和24年から63年まで電子工学科に教授として、39年間、勤めた。その間、学科主任や主事を勤め、定年後は講師も勤めた。今、名誉教授として母校の行く末を見つめている。

大きく変化して来た情報社会

梅北千広 (電波通信学科 JR 昭和 51 年卒) (株)日本システムデザイン (<http://www.n-sysdes.co.jp/>)

情報産業に身を置いて 40 年近くになります。

最近のクラウド時代、スマートフォンのアプリ、タブレット端末、ビッグデータ等、私たちを取り巻く情報社会の大きな変化が社会の仕組みの在り方まで変えていく時代になってきています。

私と同期の皆さんは還暦を迎えて今年の 3 月に定年退職していく中で、還暦お祝いと称してミニ同期会が多くなっています。これまで企業人として第一線で活躍してきた業績の話に花が咲き、皆さんがコンピュータを利用して情報社会を生き抜いてこられた中で、最近の情報社会を取り巻く環境の変化にはなかなかついていけないという話を聞きます。

1976 年に学校を卒業しオイルショックの影響で就職先は全くない状況の中、コンピュータを利用した情報産業は大きく伸びそうな分野であったので、友人のつてを辿ってソフト会社に入社しそこで 10 年間、社会人としてまた企業人として多くの事を勉強させて頂きました。この時代は大型汎用コンピュータを利用し、中央集約型の処理形態でシステム開発を行っていました。私もソフトウェア開発技術者としてプログラムを作りました。

その経験を活かして 1988 年 (35 歳) に自分でシステム開発会社を起業しました。この時期はバブルの真ただ中で仕事も沢山あり、人手不足で常に採用活動を行い、社員数を増やしていきました。5 年間は順調に業績も伸びて会社としての基礎が出来つつある中で、バブル崩壊という大きな経済不況を経験することになりました。仕事がほとんど受注できなくなり、社員も半分は空いている状況が続く、会社継続が厳しい状況の中で新しくパソコンを利用した分散型 (クライアントサーバシステム) のシステム開発が動き始めて、かろうじて首の皮一枚でつながり、会社としても徐々に仕事が戻ってきて食いつ

なぐことができました。このような経験をした事によって企業としての力もついてきたように思います。これを契機にコンピュータと情報通信の融合が進み、世界規模で情報通信できるネットワークの時代に入ってきて、Web を利用した EC サイトシステムの開発が多くなり、当社も大きく伸びてきて社員も 80 人を抱える企業まで成長してきましたが、またしても 2001 年の IT バブルの崩壊に遭遇することになりました。厳しい状況が続く中でもネットワークとコンピュータが融合した仕組みのシステム開発が進み、更に新しい時代が始まってクラウドコンピューティングが急速に拡大しつつある中、またしても 2008 年のリーマンショックによって仕事が激減し、更に追い打ちをかけるように 2011 年の東日本大震災によって大打撃を受けることになりました。仕事が半減し非常に厳しい状況を乗り越えていかなければなりません。震災から 2 年経っても復興もままならない現状において、ネットワーク社会が進むにあたってビジネス形態の変化が起こり、どこからでも利用できるクラウド時代がやっています。端末の利用の仕方がスマートフォン、タブレット端末になり大きく変化しつつあります。グローバル化していく日本経済を見据えながらアジア経済圏の一員として近隣諸国との連携が非常に重要になってきており、5 年後、10 年後には現在と違うビジネススタイルを見ることになるだろうと思います。

当社も今年で 25 周年を迎えるにあたり、社歴を振り返ってみると経済不況を乗り越えるたびに企業として強くなってきた気がします。私たちはかつてない速度で技術革新とサービスの多様化及び高度化が進展していく情報社会の構築へ向けて、更に研鑽していかなければならないと考えております。

支部・クラス会

北海道支部

北海道支部 2012年支部総会

2012年7月28日札幌市「三川屋会館」にて、同窓生20名、来賓7名にて開催しました。「電通大OBの議員とコネを作ろう」という企画に、忙しい中駆けつけてくれたS58、I科卒業で北海道議会議員、吉井 透さんより講演をしていただきました。また目黒会の70周年を記念して参加者全員に記念品が贈られました。続いて大宴会に突入、中締めの後、2次会はススキノに繰り出し、スナック貸切で大いに盛り上がりました。

参加者氏名

小野元広 (H9、M)	加賀谷 隆 (H6、F)
大津崇宏 (H17、J)	本庄良哉 (S61、R)
小林義弘 (H22、E)	長谷川博基 (S55、M)
倉本 浩 (S60、R)	水野栄二 (H1、T)
上田健一 (H4、C)	吉井 透 (S58、I)
梅沢英行 (S51、B)	菅谷延明 (H2、C)
水谷裕輔 (H15、M)	川上 伸 (S58、T)
部田則行 (S53、I)	長嶺 茂 (S57、B)
浜中直人 (H3、C)	宮本孝宏 (S61、T)
杉目 暁 (一高1期)	倉田健治 (H6、N)



2012年支部総会



2013年新年会

北海道支部 2013年新年会

予定していた忘年会が、衆議院選挙前日となった為、急遽日程を変更したにもかかわらず、13名の同窓生の出席を得て、小樽市「みよ福」にて2013年1月12日に開催されました。2000円の会費では申し訳ないと思ったのか、飲みきれないほどのお酒の差し入れもあり、鮑、毛蟹、ウニ、タコ、ぼたん海老、北寄貝、マグロ、イカ等の海の幸をお造り、海鮮鍋、お鰯で堪能いたしました。北海道にも大学はたくさんあるのに、わざわざ海

を渡って電通大に通った、訳あり同窓生は時間を忘れ旧交を温めました。

北海道支部より

北海道にお住まいの方、転勤などで北海道に移られた方など、是非、ご連絡ください。素敵な仲間が皆さんをお待ちしております。

連絡先：北海道副支部長 宮本孝宏
miyamoto.takahiro@gmail.com

東海支部総会

水野良之

平成24年11月3日（土）、目黒会東海支部総会が名古屋市港区の「名古屋港湾会館」で開催されました。来賓に、大学から福田喬理事、目黒会本部から安田耕平会長、野々村欽造副会長、金屋栄常任理事、江尻貞明事務局長をお迎えし、同窓生16名が集いました。例年より参加者が少ない状況でしたが、新たに参加いただいた方も含め幅広い年代の方に参加いただきました。

来賓の方々からは、大学の状況や創立100周

年に向けての取り組み、目黒会の状況や一般社団法人移行化についてのお話がありました。

支部総会では、法人移行化に伴い支部規約の変更等について提案され、承認されました。

懇親会は、恒例の名古屋港の夜景を船上から眺めながらのパーティクルーズで、懇談しながら楽しいひとときを過ごし、再会と今後の盛会を祈って散会としました。



平成24年 関西総支部「秋の懇親会」

H2ME 秋吉恒一郎

秋の明日香村サイクリングで史跡めぐり

平成24年10月27日、目黒会関西総支部の秋の懇親会を行いました。今回は前年（H23年）悪天候のため中止となった「秋の明日香村サイク

リングで史跡めぐり」に再チャレンジしました。

今回は天候に恵まれ、会員／ご家族合わせ14名の方にご参加頂きサイクリングを楽しみました。

午前10時に近鉄吉野線、飛鳥駅に集合。明日

香村の史跡に詳しい猪崎さん（S44T）にコース案をご検討頂き、当日も先導役、ガイド役となつて頂き、サイクリングで史跡巡りをしました。

まず、高松塚古墳及び壁画館の見学を行いました。続いて甘樫丘に登り、大和三山等を眺望しました。生駒山、信貴山も望むことができました。続いて、曾我入鹿首塚、飛鳥寺、古代の水時計跡と言われる水落遺跡を見学しました。その後、「万葉文化館」を訪れました。そろそろお昼の時間となり、文化館内にあるカフェレストランICHIEに

て花かご御膳を賞味、リーズナブルで美味しい食事でした。

昼食後、「酒作りか水時計か」と謎の石造物である「酒船石」、蘇我馬子の墓と伝えられる「石舞台古墳」を見学。石が大きく、構造、建造方法についての話が絶えませんでした。

最後に聖徳太子生誕の地とされる橘寺近辺を訪れ、柿の実があざやかな歴史の村里を堪能。ほど良い時間となった為、飛鳥駅に戻り自転車を返却し、午後4時に飛鳥駅にて解散しました。



目黒会四国支部総会報告

四国支部長 大屋英稔

目黒会四国支部では、平成24年11月10日（土）に第二回支部総会、および懇親会をアルファあなぶきホール（高松市）にて開催致しました。本支部総会、および懇親会には、酒井学長特別補佐、児玉理事、安田会長をはじめ、総勢26名の方に御出席頂き、盛んに執り行うことができました。開催にご協力頂きました皆様、御参加下さいました皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

さて、支部総会では、古田守先生（高知工科大学教授、1987年度通信工学専攻修了（四国支部副支部長））に「酸化物半導体トランジスタによる超高精細ディスプレイと透明エレクトロニクス」という題目で御講演頂きました。講演では、古田先生がこれまでに携わってこられたディスプレイ開発の概要、ならびに最新のディスプレイの動向など、平易にご説明頂き、大変興味深い内容

でした。次に、総会では、平成23年度の支部活動報告と決算報告、目黒会の一般社団法人移行に伴う支部代表代議員選出や支部規定変更などについての審議が行われました。また、四国支部の活動をより活発化するために支部役員を14名に増員する旨、報告がなされ、すべての審議事項について満場一致で承認されました。総会後には、特別講演会を開催し、電気通信大学の近況や目黒会の活動についてそれぞれご講演頂きました。地下化され、装いも新たになった調布駅、そして来る創立100周年に向けての動向、目黒会による学生の就職支援活動など、大変興味深い内容でした。特別講演会終了後には、記念撮影を行い、懇親会会場へ移動し、会員相互の親睦を図りました。懇親会では、出席者お一人お一人から自らの近況等をご報告頂くとともに、各テーブルにおいて学生

時代の部活動の話や最近の話題に花を咲かせました。懇親会には、官立中央無線講習所大阪支所時代の卒業生、目黒会広島支部支部長の川手様もご出席下さいました。また、四国支部恒例となりつつある手品で懇親会を盛り上げて下さった支部会員や四国支部初の女性役員の誕生・参加のおかげで非常に楽しい会となり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。懇親会終了後には、数多くの参加者がBarでの二次会に参加して、遅くまで盛り上がりました。

目黒会四国支部は、2011年に設立したばかりで至らないことも多々あると思いますが、四国在住の卒業生や関連の方々との交流をより一層深められるように努めていきたいと思っておりますので、今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお、第三回目黒会四国支部総会、および懇親会も例年同様に11月頃の開催を予定しておりますので、ご予約の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



2012年度タイ支部総会開催報告

タイ支部 高橋隆司

1月12日（土）目黒会タイ支部総会がバンコクにて開催されました。

大学から梶谷学長、福田理事、小林（総務課）係長、目黒会本部から安田会長、野々村副会長、山森専務理事、江尻事務局長の臨席の下、タイか

らはウィワット支部長以下タイ人会員(元留学生) 7名、日本人会員（日系企業駐在員等）8名、およびその家族7名の合計22名、プラス日本からの出張者1名の参加を得て、総勢30名の大会となりました。



今回は、梶谷学長から「電気通信大学を強くするために」の演題にてご講演いただき、また安田会長からは「電通大のいま」をご紹介いただきました。タイ人会員も含め、皆熱心に聞き入っており、企画としては大成功でした。

つづく懇親会の部では、特に今回は、梶谷学長

の研究室出身の会員がいたり、福田理事が監督をされていたクラブに所属していたという会員がいたこともあり、昔話と近況報告に花が咲きました。そして盛会の内に夜が更け、名残を惜しみながらも次回の再会を誓って散会となりました。

三期技術専攻科 第15回 同期会の報告

熊本在住 伊藤浩二郎

三期技術専攻科(昭和23年卒)の同期会が東京、原宿の水交会で開かれた。平成24年(2012年)11月12日、出席者は15名、86才～87才の古つわものの集まりである。

来年は米寿を迎える私たちは昭和20年3月旧制中学を卒業して旧通信省所管の官立中央無線電信講習所に入学した。当時は戦争末期で空襲のさなかで、厳しい教育を受けた。敗戦で夢は破れて、平和裡の通信技術者として2年間の教育を受け、さらに専攻科に進んだ者たちである。従って戦前、戦後の苦しい時代を共に生き抜いた同級生たちで、万感の思いをひめたつどいである。

この三期技術専攻科の同期会は今年、昨年、一昨年と続けて開いている。それは毎年一人～二人と亡くなっている現状から、総意で毎年会おうと決めたからである。

定刻の午前11時、幹事の開会の辞で始まったが、まずは黙祷が行われた。すでに107名の同級生のうち51名が亡くなり(15名が不明)41名が存命ということもあって御霊の冥福を祈った

のである。今年はとくに昨年まで、幹事役を長年務められた、西垣 登氏の急逝に皆の心は痛く受け止め、冥福を祈ったのである。

幹事役を務めるのは、藤山尚重氏、星野達也氏、高橋和雄氏、木戸昭治氏の4氏である。永年にわたって幹事役を務めておられるが、今年は星野達也氏が急に入院された為欠席された。

乾杯のあと議事に入り、幹事から“幹事を交代したい”との提案がされたが、全国に散らばっている会員の為にも関東在住にお願いすることが宜しかろうということで、続けてもらうことで了承された。

懇談に入れば殆どの方が悠々自適、公職なしで、腰が痛いとか耳が遠くなったとか、各自の近況報告は盛り上がり穏やかで楽しいひとときであった。

一同は幹事諸氏の骨折りに感謝しつつ、次回もこの幹事のもとで、第16回の同級会を平成25年11月11日、この水交会で開くことを約束して解散となった。



リサーチ日記

2012年10月

- コミュニケーションホール（1F）
 - ▶就職相談 114 名・面接練習 24 名〈目黒会〉
 - ▶企業さん来訪 12 社〈目黒会〉
 - ▶囲碁クラブ（毎週金曜日）〈OB・職員・学生〉
 - ▶調布市少年・少女発明クラブ（第 2 土曜日）〈大学・OB〉
 - ▶おもちゃの病院（第 3 土曜日）〈OB 他〉
 - ▶こども工作教室（第 4 土曜日）〈大学・OB〉
 - ▶アルバム用写真撮影（10/1～10/5）
 - ▶就職委員会〈目黒会〉
 - ▶規則委員会〈目黒会〉
 - ▶組織委員会〈目黒会〉
 - ▶財務委員会〈目黒会〉
 - ▶法人移行 TF〈目黒会〉
 - ▶ICT 委員会〈目黒会〉
 - ▶選挙管理委員会〈目黒会〉
 - ▶記念会館協力支援委員会〈目黒会〉
 - ▶100 周年記念事業支援委員会〈目黒会〉
- ミュージアム（2F）

2012 年 4 月から 2 階はミュージアムではなく以下のように使用しています

 - ・多目的教室
 - ・子供工作準備室
 - ・応接室（1 階の応接室はなくなりました）
 - ・面接室（2 室）
- フォーラム（3F）
 - ▶理事会〈目黒会〉
 - ▶第二回アルバム委員会〈目黒会〉
 - ▶マスコミセミナー〈目黒会〉
 - ▶高校説明会〈大学・入試課〉
 - ▶技術経営実践スクール〈大学〉
 - ▶地域産業振興講座〈大学〉
 - ▶キャリアデザイン〈大学〉

2012年11月

- 調布祭 23 日（金）～25 日（日）
- コミュニケーションホール（1F）
 - ▶就職相談 90 名・面接練習 15 名〈目黒会〉
 - ▶企業さん来訪 18 社〈目黒会〉
 - ▶囲碁クラブ（毎週金曜日）〈OB・職員・学生〉
 - ▶調布市少年・少女発明クラブ（第 2 土曜日）〈大学・OB〉
 - ▶おもちゃの病院（第 3 土曜日）〈OB 他〉
 - ▶就職委員会〈目黒会〉
 - ▶選挙管理委員会〈目黒会〉
 - ▶組織委員会〈目黒会〉
 - ▶学術委員会・移動体通信研究会反省会〈目黒会〉
- フォーラム（3F）
 - ▶企業研究展示会説明会〈目黒会〉
 - ▶キャリアデザイン〈大学〉
 - ▶入試説明会〈大学〉
 - ▶ギガビット研究会シンポジウム〈大学〉
 - ▶創業経営支援セミナー〈大学〉
 - ▶技術経営実践スクール〈大学〉
 - ▶地域産業振興講座〈大学〉

2012年12月

- コミュニケーションホール（1F）
 - ▶就職相談 96 名・面接練習 6 名〈目黒会〉
 - ▶企業さん来訪 20 社〈目黒会〉
 - ▶囲碁クラブ（毎週金曜日）〈OB・職員・学生〉

- ▶調布市少年・少女発明クラブ（第 2 土曜日）〈大学・OB〉
- ▶おもちゃの病院（第 3 土曜日）〈OB 他〉
- ▶こども工作教室（第 4 土曜日）〈大学・OB〉
- ▶100 周年記念事業支援委員会〈目黒会〉
- ▶就職委員会〈目黒会〉
- ▶規則委員会〈目黒会〉

- フォーラム（3F）
 - ▶理事会〈目黒会〉
 - ▶キャリアデザイン〈大学〉
 - ▶ギガビット研究会シンポジウム〈大学〉
 - ▶技術経営実践スクール〈大学〉
 - ▶地域産業振興講座〈大学〉

2013年1月

- コミュニケーションホール（1F）
 - ▶就職相談 93 名・面接練習 10 名〈目黒会〉
 - ▶企業さん来訪 11 社〈目黒会〉
 - ▶囲碁クラブ（毎週金曜日）〈OB・職員・学生〉
 - ▶調布市少年・少女発明クラブ（第 2 土曜日）〈大学・OB〉
 - ▶おもちゃの病院（第 3 土曜日）〈OB 他〉
 - ▶こども工作教室（第 4 土曜日）〈大学・OB〉
 - ▶ICT 委員会〈目黒会〉
 - ▶就職委員会〈目黒会〉
- フォーラム（3F）
 - ▶企業別就職相談会〈目黒会〉
 - ▶キャリアデザイン〈大学〉
 - ▶ギガビット研究会シンポジウム〈大学〉
 - ▶技術経営実践スクール〈大学〉

2013年2月

- コミュニケーションホール（1F）
 - ▶就職相談 140 名・面接練習 12 名〈目黒会〉
 - ▶企業さん来訪 12 社〈目黒会〉
 - ▶囲碁クラブ（毎週金曜日）〈OB・職員・学生〉
 - ▶調布市少年・少女発明クラブ（2 月は出前のみ）
 - ▶おもちゃの病院（第 3 土曜日）〈OB 他〉
 - ▶就職委員会〈目黒会〉
 - ▶規則委員会〈目黒会〉
 - ▶100 周年記念事業支援委員会〈目黒会〉
- フォーラム（3F）
 - ▶公開講座〈大学〉
 - ▶地域産業振興講座〈大学〉
 - ▶技術経営実践スクール〈大学〉
 - ▶地域イノベーション報告会

2013年3月

- コミュニケーションホール（1F）
 - ▶就職相談 155 名・面接練習 31 名〈目黒会〉
 - ▶企業さん来訪 9 社〈目黒会〉
 - ▶囲碁クラブ（毎週金曜日）〈OB・職員・学生〉
 - ▶おもちゃの病院（第 3 土曜日）〈OB 他〉
 - ▶調布市少年・少女発明クラブ修了式
 - ▶就職委員会〈目黒会〉
 - ▶組織委員会〈目黒会〉
 - ▶学術委員会〈目黒会〉
 - ▶ICT 委員会〈目黒会〉
 - ▶法人移行 TF〈目黒会〉
 - ▶財務委員会〈目黒会〉
- フォーラム（3F）
 - ▶理事会〈目黒会〉
 - ▶地域産業振興講座〈大学〉
 - ▶技術経営実践スクール〈大学〉
 - ▶発明クラブ修了式

寄 付

■一般寄付

桑原 弘道	昭和23	技専	¥1,000	山之内 暢彦	平成14	DSS	¥2,000
船木 照雄	昭和28	B	¥2,000	山田 修三	元電通大	名誉教授	¥2,000
遠藤 達三	昭和29	R	¥3,000	■留学生寄付			
谷津 潔	昭和38	E	¥10,000	下地 常政	昭和32	B	¥2,000
浦山 征晴	昭和39	JT	¥2,000	三橋 涉	昭和44	RA	¥10,000
伊藤 博	昭和40	M	¥2,000	生井 孝幸	平成3	MC	¥5,000
三橋 涉	昭和44	RA	¥10,000	■会館支援寄付			
伊藤 啓一	昭和49	C	¥2,000	三橋 涉	昭和44	RA	¥10,000
菅谷 裕治	昭和54	JR	¥10,000				

訃 報

三澤 宏	昭和15	選	2000.10.1	大平 信	昭和34	R	2012.7.4
山田 市造	昭和16	本	2011.1.1	小林 成光	昭和34	T	2011.12.20
坪井 康	昭和16	本	2012.1.17	松本 章	昭和35	B	2011.11.10
行藤 茂	昭和16	本科		国府田 東一	昭和37	RB	2012.8.22
松本 寿夫	昭和17	特	2012.5.15	落合 和雄	昭和38	T	2012.11.11
宇都 連太郎	昭和18	特特		須田 信弘	昭和39	T	
奥山 光雄	昭和19	二高1	2011.2.23	向後 保	昭和41	RB	2013.3.1
油谷 博正	昭和19	二高2	2005	井桁 貞三	昭和42	B	2013.3.5
加藤 勝方	昭和19	二高2	2012.10.26	石田 富士夫	昭和50	D	2012.11.12
金森 繁夫	昭和19	一高1	2012.2.24				
山田 康正	昭和19	一普1	2011.7.12				
佐藤 愛二	昭和20	板三普	2011.11.5				
山本 克治	昭和20	大特普	2012.4.28				
高山 謙三	昭和20	二高4	2012.4.5				
高橋 勝郎	昭和20	一高3	2012.3.22				
宮本 泰	昭和20	終業生	2012.2.6				
守屋 正利	昭和20	三普6	2012.10.22				
小川 恵一郎	昭和20	大三普	2012.11.27				
末松 穂助	昭和20	大特普	2012.5.24				
佐々木 清	昭和20	二高3	2012.12.19				
田部 眞	昭和20	二高3	2013.2.2				
江島 昭二	昭和21	本乙	2012.11.7				
浦 宏吉	昭和23	藤本乙	2012.10.26				
楠本 忠行	昭和25	別普	2012.7.17				
柏崎 孝介	昭和29	学別	2012.7.9				
芳賀 哲男	昭和30	R	2012.8.10				
重広 睦雄	昭和30	R	2012.12.6				
岩崎 正彌	昭和30	R	2012.10.16				
山本 昌英	昭和32	T	2012.1.22				
白川 洋一	昭和32	T	2012.6.24				

編集後記

永い間、大久保忠昭氏に連載をしていただきました「COLLINSと共に生きた我が人生」が、今号をもって終了致します。10年余の永きにわたり22回の連載をしていただき、誠にありがとうございました。本稿を楽しみにしていた読者諸氏も多かったようです。

永年のご尽力に対し、大久保氏には改めて感謝申し上げます。

広報委員会委員長として6年余りにわたり、本会報誌の編集を担当させていただきましたが、今号(24年度)を以って広報委員を退任致し、編集責任者の任を外れることになりました。永い間、ご愛読いただきましてありがとうございました。

今までご執筆いただきました執筆者各位、OB各位、先生方には大変お世話になりました。ありがとうございます。

編集責任業務を引き継いでから、“目黒会・OB・電通大を元気に！”をスローガンに下記の点に留意して編集を進めてまいりました。

①OB・大学関係者・父兄に対し目黒会活動にご理解いただく一助とする

②年3回発行を年2回(4月、12月)にして密度の濃い会報誌をつくる

③ページ数は72ページを基本構成にページ数の平準化を図る

④カラーページ、広告ページを増やして明るいイメージの会報誌にする

⑤できるだけ在学生・OB・先生方の多くの方々にご登場いただき各位の情報を提供する

⑥WEB(目黒会・電通大ホームページ)とは違った“記録的要素”を盛り込み編集する

⑦硬軟合わせた情報を提供する

手前味噌かもしれませんが、他大学の同窓会誌と比べても遜色がないのでは…と自負しております。

最後に永らく編集業務をサポートしていただいた皆様には多大なるご尽力をいただきました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

次号(本年12月に発行予定)から後任者が編集を担当しますが、今まで以上にご協力いただけますよう、何卒、よろしくお願い致します。

(CHOFU Network 編集長 大橋正己)

会報に広告を掲載しませんか

御社の企業広告、或いは、即戦力としての中途採用広告の掲載をお待ち致しております。

■発行部数：33,000部(4月)
13,000部(12月)

■配布先：卒業生、教職員、賛助会員
(12月は正会員のみ)

■発行日：年2回(4、12月)

【広告掲載料金】

表紙の4(4色1ページ) …… ￥300,000

表紙の3(4色1ページ) …… ￥300,000

本文カラーページ…………… ￥250,000

※連続掲載の場合の料金は別途ご相談ください。

詳細については事務局へお問い合わせください。

電気通信大学同窓会

一般社団法人 目黒会

〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1 電気通信大学内

TEL:042-482-3812 FAX:042-482-3845

E-mail: info@megurokai.jp

発行日 平成 25 年 4 月 22 日

発行人 目黒会

編集人 大橋正己

※本誌の記事を無断で転載することを禁じます

目黒会ホームページ

URL <http://megurokai.jp/>

広報委員会委員名

委員長

大橋 正己

副委員長

坂本 隆

高橋 真之

委員

野々村欽造

根本 貞臣

小柳 洋

近藤 俊雄

松井 義明

江尻 貞明(事務局長)

川島 廣海

中谷 敬郷(副事務局長)

※2013年3月31日現在

次号(25-2)の発行は2013年12月上旬の予定です。

電気通信大学オリジナルグッズ

大学の校章が入った記念のグッズが揃っています。



ポロシャツ

今話題のクールビズに最適なポロシャツです。また、同窓会やクラス支部会のくつろいだ場にもカジュアルでお洒落です。お揃いでいかがですか。

●色：グリーン、ホワイト

●サイズ：M、L

価格¥1,200(送料¥400)

バッジ(リサーチ)



校章を金色であしらったバッジです。タックピン形式ですので、襟章として使用できます。
価格¥500(送料¥200)

バッジ(UEC)



電通大のコミュニケーションマークUECをあしらったバッジです。タックピン形式ですので、襟章として使用できます。
価格¥500(送料¥200)

音波振動歯ブラシ

ポーチに入れて持ち運べる
UV殺菌機一体型の音波振動歯ブラシ。
男性にもお使いいただけます。

価格¥2,000
(送料¥200)



ネクタイピン(A)



白と濃緑色七宝焼きに校章を金色であしらったお洒落なネクタイピンです。
価格¥2,000(送料¥200)

ネクタイピン(B)



濃紺の地に校章を金で抜いた、金メッキ仕上げのフォーマルなネクタイピンです。
Yシャツのボタンに留められるチェーン付。
価格¥2,500(送料¥200)

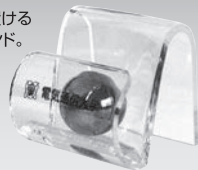
ネクタイピン(C)



校章を金色であしらった、洗って落ち着きのあるネクタイピンです。
価格¥600(送料¥200)

マーブルスタンド

パソコンの脇に置く
便利な原稿スタンド。



価格¥600
(送料¥200)

ゴルフマーカー

ゴルフをされる方には、グリーン上のマーカーとしてお使い戴けます。マーカー2個とホルダーのセットです。



価格¥1,500(送料¥200)

絵はがき

目黒会報の表紙を飾る、電通大の四季折々が描かれた絵はがきです。
●8枚1組

価格¥500
(送料¥200)



一般社団法人 目黒会 事務局

〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学内 TEL:042-482-3812 FAX:042-482-3845

E-mail : info@megurokai.jp <http://megurokai.jp/>

〔お申込み方法〕●ネット販売：上記「目黒会」のホームページのバナーへアクセスしてください。

●郵便振替：口座番号：00110-2-190235 加入者名：(シヤ)メグロカイ

*ご注文に際して不明の点があれば、上記「目黒会」事務局へお問合せください。

新たな舞台で輝くOBを誌上訪問

NEW STAGE

第7回

遠峰 徹

(昭和 53 年 機械工学科修士卒業)

交響楽団から 弦楽アンサンブルへ



諏訪交響楽団の生まれた約 90 年前の諏訪は、日本の製糸産業の中心として活況を呈していました。製糸業の御曹司達が東京で学んだ時、幾多の名演奏家が東京を訪れていたに違いありません。20 世紀は名演奏家の奇跡の世紀と言われ、東京で多くの名演奏に感銘を受けたと思われます。西洋音楽の洗礼を受けた若者達が遊学から戻って大正 14 年に創設したのが諏訪交響楽団です。以来約 90 年に渡る国内最古のアマチュアオーケストラの歴史を重ねています。

そんな諏訪響に入団して 30 年間歴史を支えてきましたが、熱気あふれる若き団員の密度の高い演奏活動に、体力の限界と家庭の理解の限界も見えてきました。そこで、挑戦的な演奏活動よりもハケ岳山麓の自然に溶け込むような演奏活動を求めて、OB と現役を交えた 10 人で 5 年前に KOBUSHI 弦楽アンサンブルを立ち上げました。KOBUSHI の意味は、辛夷、古武士、鼓舞し(情



熱)を含んでいます。ハケ岳の裾野に春を届ける白い花である辛夷、美しい自然の中に漂う旋律を奏でる様な花です。我々も聴衆に音楽を届け、最長老 70 才超えを含め、皆諏訪響 30 年以上の経験者により、演奏に情熱をこめて歌いたい思いを込めたネーミングです。指揮者とヴァイオリン 5 名、ヴィオラ 2 名、チェロ 2 名のメンバーで、隔週の練習を続け諏訪エリアで年 6 ~ 7 回の演奏会を行っています。何時かは峠の向こうにと、横浜みなとみらいで毎年開催されるアマチュア室内楽フェスティバルに 3 回チャレンジしてきましたが、未だに出場の夢はかなっていません。今年もモーツァルトの名曲、弦楽四重奏 #14 の第一楽章で再チャレンジを始めています。

平均年齢 60 を超えるグループでさぞ和気あいあいと思いきや、人は年とともに自らの存在も確認したくなるようです。音楽のアンサンブルを求めつつ、一番楽しく、しかし時にほころびの縫いに気をもむのも、メンバーの織りなすアンサンブルが故でしょうか。バロックからなかなかロマン派の曲に進めない中、メンバーの醸し出す今風アンサンブルを楽しむ今日この頃です。



後列右から 2 人目が筆者

大学を活用しよう!

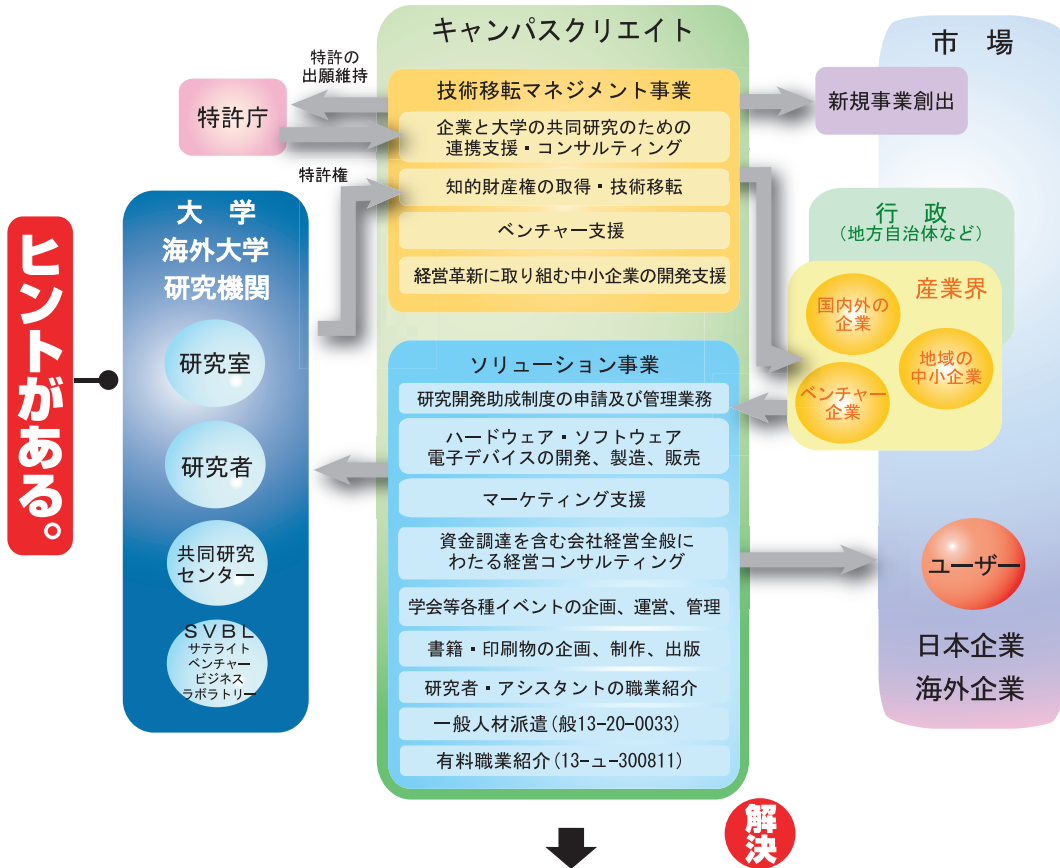


探す

<http://campuscreate.com>



アソシエイト



電気通信大学と社会を連携、
大学が持つ知的資源を活用し、新技術・新産業の創出を
キャンパスクリエイトがお手伝いします。

海外(中国)での事業もお手伝いします!

中国で注目のシンセン市に2007年10月に現地法人を立ち上げました。ここを拠点にして大連、北京、上海、等中国各地に大学を中心としたネットワークを構築いたしました。これにより皆様のご要望にさらに広くお応えできるようになりました。中国での市場調査やイベント出展支援、日中人材交流会での人材確保支援、さらには中国進出に関するコンサルティングや大学・研究者との共同研究のコーディネートまで、中国の現在と未来を活用するお手伝いをさせていただきます。

株式会社キャンパスクリエイトは 電気通信大学の教職員と同窓生他が出資した会社です。



株式会社キャンパスクリエイト

連絡先 ▶ 〒182-8585 東京都 調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学産学官連携センター内
TEL:042-490-5734 FAX:042-490-5727
e-mail:info@campuscreate.com URL:<http://campuscreate.com>



2005年2月キャンパスクリエイトは
技術移転機関として国内で初めて
ISO9001を取得しました!